

EA-7HW04AP1  
WEBコンソール  
画面説明資料  
(FW V04.00R0300)

2025/09/25 v1.0

# ログイン

Panasonic  
EA-7HW04AP1

ユーザー名

パスワード

Login

①  
②  
③

## ①ユーザー名

Webコンソールへログインするユーザー名を入力する。初期値はrootです。ログイン後、変更することができます。

## ②パスワード

Webコンソールへログインするパスワードを入力する。初期値はrootです。初回ログイン時、パスワード変更画面が表示されパスワード変更する必要があります。

## ③Login

ユーザー名、パスワード入力後”Login”をクリックします。装置に設定されたユーザー名、パスワードでログイン可能です。

**注意:ご使用時、ユーザー名およびパスワードは必ず変更してください。**

# メイン画面



## ①装置再起動

装置を再起動します。確認メッセージが表示されるのでOKをクリックすると再起動します。Webコンソールは切断されますので再度ログインが必要です。

## ②適用

設定内容を装置に適用します。設定変更を行うとオレンジ色に変化します。適用中はオレンジ色が点滅します。”適用しました”のメッセージが表示されると適用完了となります。再起動すると設定は消えてしまいますので”保存”を実施してください。

**注意:オレンジ色の状態は変更内容が装置に適用されていない項目があることを示しています**

## ③保存

設定内容を装置に保存します。設定変更を行うとオレンジ色に変化します。保存中はオレンジ色で点滅します。”保存しました”のメッセージが表示されると保存完了となります。電源OFFにしても設定が保持されます。

**注意:オレンジ色の状態は変更内容が装置に保存されていない項目があることを示しています**

## ④更新

画面を最新の状態に更新します。

## ⑤印刷

表示中の画面を印刷します。

## ⑥サイトマップ

Webコンソールのメニュー一覧が表示されます。

## ⑦ログアウト

Webコンソールからログアウトします。ログイン画面に戻ります。

## ⑧簡易設定

必要最低限の設定にてWi-Fiを使用するための設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

⑨無線ネットワーク設定

SSID設定等無線関連の設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

⑩ネットワーク設定

PPP、L2TP、Ipsec等ネットワーク関連の設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

⑪アクセス設定

フィルター設定、TOS設定関連の設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

⑫システム設定

装置設定、ファイル設定、監視設定(SNMP等)の設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

⑬状態

装置情報、装置警報情報、無線情報等の装置状態のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

⑭保守

ユーザー設定、ログ表示等の保守関連のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

⑮製品品番

接続しているアクセスポイントの製品品番を表示します。

⑯装置時刻

装置に設定されている時刻を表示します。

⑰製品シリアル番号

接続しているアクセスポイントの製品シリアル番号を表示します。

⑱自装置MACアドレス

接続しているアクセスポイントのMACアドレスを表示します。

⑲ファームウェアバージョン

接続しているアクセスポイントのファームウェアバージョンを表示します。

※最新ファームウェアは弊社HP(<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/wifi>)にてダウンロード可能です。

⑳ハードウェアバージョン

接続しているアクセスポイントのハードウェアバージョンを表示します。

㉑Panasonicロゴ

Panasonicロゴをクリックするとメイン画面が表示されます。どの画面からでもメイン画面に戻ります。

# 簡易設定(有線設定)

The screenshot shows the Panasonic Easy Setup (Wired Setup) web interface. The left sidebar contains a menu with '簡易設定' (Easy Setup) expanded, showing '有線設定' (Wired Setup) and '無線設定' (Wireless Setup). The main content area is titled '簡易設定 (有線設定)' (Easy Setup (Wired Setup)).

Under '有線設定' (Wired Setup), there are three sections:

- IP動作モード** (IP Operation Mode): Radio buttons for '固定設定 (StaticIP)' (selected) and '自動設定 (DHCP)'. Callout ① points to the radio buttons. Below are input fields for 'IPアドレス' (192.168.0.3), 'サブネットマスク' (255.255.255.0), and 'ゲートウェイ' (0.0.0.0). Callouts ②, ③, and ④ point to these fields respectively.
- DNS動作モード (?)** (DNS Operation Mode): Radio buttons for '固定設定' (selected), '自動設定', and '設定なし'. Callout ⑤ points to the radio buttons. Below are input fields for 'DNS1' (0.0.0.0) and 'DNS2' (0.0.0.0). Callouts ⑥ and ⑦ point to these fields respectively.
- VLAN設定** (VLAN Setting): Radio buttons for '有効' and '無効' (selected). Callout ⑧ points to the radio buttons. Below are input fields for 'VLAN-ID' (1) and 'CoS値' (0). Callouts ⑨ and ⑩ point to these fields respectively.

At the bottom, there is a '設定' (Settings) button. Callout ⑪ points to this button.

## 有線設定

### ①IP動作モード

装置インターフェースのIPアドレスの割り当て方法を選択します(固定/自動)。簡易設定ではPPPoEは設定できません。装置設定用の装置インターフェースは固定を推奨します。

**注意:** 自動設定とすると割り振られたIPアドレスがわからなくなり、本装置にアクセスできなくなる場合があります。その場合、INIT\_SWIによる初期化が必要となります(設定はすべて初期化されます)。

### ②IPアドレス

IP動作モード固定設定の場合にIPアドレスを設定します。

### ③サブネットマスク

IP動作モード固定設定の場合にサブネットマスクを設定します。

### ④ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。

### ⑤DNS動作モード

DNSサーバのIPアドレスの割り当て方法を選択します(固定/自動/なし)。使用する場合、DNSサーバの用意、設定を行ってください。

### ⑥DNS1/DNS2

DNSサーバのIPアドレスを設定します。

### ⑦VLAN設定

装置インターフェースのVLANの有無の設定をします。有効にするとVLAN-IDに設定されたIDのTagが付与されます。

### ⑧VLAN-ID

VLANIDを設定します。

#### ⑨CoS値

VLANのCoS値(優先度:0低～7高)を設定します。

#### ⑩設定

①～⑨設定後”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

補足:本設定は装置インターフェースNo.1に設定されます。

# 簡易設定(無線設定)

## SSID設定

### ①SSID

アクセスポイントの識別名。最大32文字の英数字を任意に設定可能。この名称が端末で見えるSSIDとなります。

## アクセス制御

### ②端末間通信

本SSIDに接続した端末間で通信を許可するかしないかを設定します。

許可: 端末間の通信を許可します(データを透過します)。

禁止: 端末間の通信を禁止します(データを廃棄します)。

## セキュリティ設定

### ③セキュリティ種別

本SSIDのセキュリティ種別を選択します。簡易設定ではオープン/オープン認証(OWEなし)/WPA2パーソナル/WPA3パーソナル/WPA3パーソナル(Mixed)/OWEから選択します。セキュリティ種別による個別の設定項目についてはSSID編集画面にて説明しています。

WPA2,3エンタープライズ各種は簡易設定では選択できません(SSID設定⇒SSID編集にて設定)

### ④SSIDステルス

SSIDステルスを有効にするかしないかの設定。本設定を有効にすると①で設定したSSIDが端末では見えなくなります。SSIDを知っている人だけが接続できるようになります。

有効: ビーコンにSSID情報を付与する(誰でもSSIDを知ることができるため誰でもアクセス可能)。

無効: ビーコンにSSID情報を付与しない(SSIDを知らないとアクセスできない)。

## 2.4GHz帯設定

### ⑤無線インターフェイス

2.4GHz帯を使用するかしないかを設定します。

有効: 2.4GHz帯のチャンネルを使用して無線出力する。

無効: 2.4GHz帯の無線出力を停止する。

### ⑥チャンネル制御

2.4GHz帯の使用チャンネルの選択方法を設定します。

固定: ⑦の使用チャンネルで設定したチャンネルを使用する。

自動: APが周囲の状況を検知して、自動的にチャンネルを選択する。

自動2: 最初は指定チャンネルを選択、以降は自動設定と同じ動作。

### ⑦使用チャンネル番号

⑥のチャンネル制御が固定もしくは自動2時に使用するチャンネル(1～13)を設定します。

### ⑧最大周波数帯域幅

2.4GHz帯の最大周波数帯域幅を20MHz/40MHzより選択する。実際の帯域幅は周囲の状況によりAPが自動的に判断します。

## 5GHz帯設定

### ⑨無線インターフェイス

5GHz帯を使用するかしないかを設定します。

有効: 5GHz帯のチャンネルを使用して無線出力する。

無効: 5GHz帯の無線出力を停止する。

### ⑩チャンネル制御

5GHz帯の使用チャンネルの選択方法を設定します。

固定: ⑪の使用チャンネルで設定したチャンネルを使用する。

自動: APが周囲の状況を検知して、自動的にチャンネルを選択する。

自動2: 最初は指定チャンネルを選択、以降は自動設定と同じ動作。

### ⑪使用チャンネル番号

⑩のチャンネル制御が固定時もしくは自動2時に使用するチャンネル(36～64、100～144)を選択します。

### ⑫最大周波数帯域幅

5GHz帯の最大周波数帯域幅を20MHz/40MHz/80MHzより選択する。実際の帯域幅は周囲の状況によりAPが自動的に判断します。

### ⑬設定

①～⑫設定後”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意: ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。



# 装置インターフェイス設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

装置インターフェイス設定

SSID設定

SSID詳細設定

無線詳細設定

Authenticationサーバー設定

Accountingサーバー設定

DNS設定

端末接続許可設定

回線設定

Web認証設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

## 装置インターフェイス設定

① 装置インターフェイス状態一覧

② 装置インターフェイス名

③ 状態

④ 動作モード

⑤ IPアドレス

⑥ サブネットマスク

⑦ VLAN-ID

⑧ 編集

No.	装置インターフェイス名	状態	動作モード	IPアドレス	サブネットマスク	VLAN-ID	
1	IF01	有効	固定設定	192.168.0.3	255.255.255.0	—	編集
2	IF02	無効	—	—	—	—	編集
3	IF03	無効	—	—	—	—	編集
4	IF04	無効	—	—	—	—	編集
5	IF05	無効	—	—	—	—	編集
6	IF06	無効	—	—	—	—	編集
7	IF07	無効	—	—	—	—	編集
8	IF08	無効	—	—	—	—	編集
9	IF09	無効	—	—	—	—	編集
10	IF10	無効	—	—	—	—	編集
11	IF11	無効	—	—	—	—	編集
12	IF12	無効	—	—	—	—	編集
13	IF13	無効	—	—	—	—	編集
14	IF14	無効	—	—	—	—	編集
15	IF15	無効	—	—	—	—	編集
16	IF16	無効	—	—	—	—	編集

装置インターフェイスはAPから見てWAN側（インターネット）のインターフェイスおよびLAN側のインターフェイスの各種設定を行います。WAN側とLAN側は別の装置インターフェイスに設定を行い、別画面にてL2TP設定、Ipsec、ルーティング設定により紐づけを行います。

### ①No

装置インターフェイス番号を示します。最大16の装置インターフェイスの設定が可能。

### ②装置インターフェイス名

装置インターフェイスの名前を表示します。インターフェイス番号ごとに”編集”にて設定された内容が表示されます。

### ③状態

装置インターフェイスの状態（有効/無効）を表示します。インターフェイス番号ごとに設定された内容が表示されます。

### ④動作モード

装置インターフェイスの動作モード（固定/自動/PPP）を表示します。インターフェイス番号ごとに”編集”にて設定された内容が表示されます。

### ⑤IPアドレス

装置インターフェイスのIPアドレスを表示します。インターフェイス番号ごとに”編集”にて設定（もしくは取得）された内容が表示されます。

### ⑥サブネットマスク

装置インターフェイスのサブネットマスクを表示します。インターフェイス番号ごとに”編集”にて設定（もしくは取得）された内容が表示されます。

### ⑦VLAN-ID

装置インターフェイスのVLAN-IDを表示します。インターフェイス番号ごとに”編集”にて設定された内容が表示されます。

### ⑧編集

装置インターフェイス番号ごとに、”編集”をクリックすると装置インターフェイス編集画面に変わります。

# 装置インターフェイス編集

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定  
▼ 無線ネットワーク設定  
    **装置インターフェイス設定**  
    SSID設定  
    SSID詳細設定  
    無線詳細設定  
    Authenticationサーバー設定  
    Accountingサーバー設定  
    DNS設定  
    端末接続許可設定  
    回線設定  
    Web認証設定  
▶ ネットワーク設定  
▶ アクセス設定  
▶ システム設定  
▶ 状態  
▶ 保守

## 装置インターフェイス編集

装置インターフェイス名: IF01

装置インターフェイス設定

インターフェイス: ☒ 有効 ☐ 無効

装置インターフェイス名: IF01 (0~16文字)

装置インターフェイス状態

IP動作モード: 固定設定

IPアドレス: 192.168.0.3

サブネットマスク: 255.255.255.0

IP自動設定: 有効

DNS動作モード: 固定

DNS1: 0.0.0.0

DNS2: 0.0.0.0

IP動作モード: ☒ 固定設定 (StaticIP) ☐ 自動設定 (DHCP) ☐ PPPoE ☐ 設定なし

IPアドレス: 192.168.0.3

サブネットマスク: 255.255.255.0

PPP設定

ユーザー名: (0~64文字)

パスワード: (0~64文字)

☐ 入力確認

IP自動設定

IP自動設定: ☒ 有効 ☐ 無効

DNS動作モード (?) ☒ 固定設定 ☐ 自動設定 ☐ 設定なし

DNS1: 0.0.0.0

DNS2: 0.0.0.0

VLAN設定 ☐ 有効 ☒ 無効

VLAN-ID: 1 (0~4095)

CoS値: 0 (0~7)

転送先設定

イーサネット: ☒ 有効 ☐ 無効

L2TPトンネル1: ☐

L2TPトンネル2: ☐

L2TPトンネル3: ☐

L2TPトンネル4: ☐

無線ブリッジ1: ☒ 有効 ☐ 無効

無線ブリッジ2: ☒ 有効 ☐ 無効

IGMPスヌーピング設定

IGMPスヌーピング: ☐ 有効 ☒ 無効

DHCPサーバー設定 ☐ 有効 ☒ 無効

割当開始IPアドレス: 0.0.0.0

割当回数: 2048 (1~2048)

リース期間: 60 分 (10~1440)

ゲートウェイ:

DNS1: 0.0.0.0

DNS2: 0.0.0.0

DHCPリレー設定 ☐ 有効 ☒ 無効

サーバーIPアドレス1: 0.0.0.0

サーバーIPアドレス2: 0.0.0.0

IPマスカレード設定

IPマスカレード: ☐ 有効 ☒ 無効

MSSクランプ動作モード ☒ 設定なし ☐ 手動設定 ☐ 自動設定

MSS値: 1460 バイト (536~1460)

AP間折り返し禁止設定

対象IPアドレス: 0.0.0.0

対象MACアドレス: 00:00:00:00:00:00

対象IF:

※ IPアドレスとMACアドレスを設定した場合、MACアドレスが優先されます。

戻る 設定

①装置インターフェース名

本画面の設定を行う装置インターフェース名を選択します。③で設定した装置インターフェース名が表示されます。装置インターフェース設定画面に戻らずにここで切り替えが可能です。

**装置インターフェース設定**

②インターフェース

装置インターフェースの有効/無効を設定します。

③装置インターフェース名

装置インターフェースの名称を任意に設定できます。

**④装置インターフェース状態**

本装置インターフェースの現在の設定状態を表示します。

**⑤IP動作モード**

装置インターフェースの動作モードを固定/自動/PPPoE/なしから選択します。装置設定用の装置インターフェースは固定を推奨します。

⑥IPアドレス

IP動作モード”固定設定”の場合にIPアドレスを設定します。

⑦サブネットマスク

IP動作モード”固定設定”の場合にサブネットマスクを設定します。

**PPP設定**

⑧ユーザー名

IP動作モード”PPPoE”の場合にユーザー名を設定します。ユーザー名はインターネットサービスプロバイダより発行されたものを設定します。

⑨パスワード

IP動作モード”PPPoE”の場合にパスワードを設定します。パスワードはインターネットサービスプロバイダより発行されたものを設定します。

**⑩IP自動設定**

パナソニックEWネットワークスのアプリケーション(ZEQUO assist Plus)によるIPアドレスの設定機能の有効/無効を設定します。

**ZEQUO assist Plusの本機種への対応版は、V1.7.0.1以降となります。**

**⑪DNS動作モード**

DNSサーバのIPアドレスの割り当て方法を選択します(固定/自動/なし)。使用する場合、DNSサーバの用意、設定を行ってください。ネットワーク上の指定したDNSサーバにアクセスし、ドメイン名解決を行うことが出来ます。

⑫DNS1/2

DNSサーバのIPアドレスを設定します。

**⑬VLAN設定**

VLANの有無の設定をします。有効にするとVLAN-IDに設定されたIDのTagが付与されます。

⑭VLAN-ID

VLANIDを設定します。

⑮CoS値

VLANのCoS値(優先度:0低~7高)を設定します。

**転送先設定**

⑯イーサネット

イーサネットへのパケット転送の有効/無効を設定します。

⑰L2TPトンネル1~4

L2TP使用時、使用するトンネル番号のセッション番号(1~16)を設定します。L2TP設定には別途”PPP設定(装置インターフェイス設定)””および”L2TP設定(ネットワーク設定⇒L2TP設定)”が必要です。

⑱無線ブリッジ1/2

無線ブリッジへの転送の有効/無効を設定します。無線ブリッジの設定が別途必要です。

無線ブリッジ1(2.4GHz)、無線ブリッジ2(5GHz)

#### ⑲IGMPスヌーピング

IGMPスヌーピングの有効/無効を設定します。  
無線端末から受信したIGMPパケットを監視、学習します。学習したマルチキャストグループに属する無線端末が存在するSSIDのみに転送することで通信量を抑えます。

#### ⑳DHCPサーバー設定

APを端末のDHCPサーバーとして使用する/しないの設定をします。有効にすると以降の設定に従いIPアドレスが端末へ割り振られます。

#### ㉑割り当て開始アドレス

割り当てるIPアドレスの先頭アドレスを設定します。設定するアドレスは本装置インターフェースのIPアドレスと同一ネットワーク内としてください。

#### ㉒割り当て個数

割り当てるIPアドレスの個数を設定します。設定する個数は本装置インターフェースのIPアドレスと同一ネットワーク内としてください。

#### ㉓リース期間

IPアドレスを割り当てる期間(10～1440分)を設定します。リース期間が経過すると端末は切断されます(再認証され接続されます)。

#### ㉔ゲートウェイ

ゲートウェイのIPアドレスを設定します。

#### ㉕DNS1/2

DNSサーバのIPアドレスを設定します。

#### ㉖DHCPリレー設定

DHCPリレーの有効/無効を設定します。DHCPサーバが同一サブネットではない場合に使用します。有効時、DHCPクライアントから受信したブロードキャストをユニキャストに変換して㉖で設定されたDHCPサーバに転送します。

#### ㉗サーバーIPアドレス

DHCPリレー有効時のDHCPサーバのIPアドレスを設定します。

#### ㉘IPマスカレード

IPマスカレードの有効/無効を設定します。

1つのグローバルIPアドレスを利用して、LAN内のプライベートIPアドレスを持つ複数のパソコンをインターネットに接続できる機能です。

#### ㉙MSSクランプ動作モード

Maximum Segment Size(TCPにおける受信可能なセグメントサイズの最大値)クランプの動作モードを設定します。  
なし/手動設定/自動設定から選択します。

#### ㉚MSS値

Maximum Segment Size(TCPにおける受信可能なセグメントサイズの最大値)を設定します。MSSクランプ動作モードが手動設定時に本設定のMSS値がユーザーデータの最大値となります。

#### AP間折り返し禁止設定

##### ㉛対象IPアドレス

対象IPアドレスを設定します。APに接続した端末について対象IF設定で設定したインターフェイスとの通信が本設定で設定したIPアドレスとのみとなります。ルータのIPアドレスを設定することにより、端末はルータとのみ通信を行うためAP間の通信は行われなくなります。※対象MACアドレスを指定した場合はMACアドレスが優先されます。

##### ㉜対象MACアドレス

対象MACアドレスを設定します。対象IF設定で設定したインターフェイスとの通信が本設定で設定したMACアドレスとのみとなります。ルータのMACアドレスを設定することにより、端末はルータとのみ通信を行うためAP間の通信は行われなくなります。※対象MACアドレスを指定した場合はMACアドレスが優先されます。

##### ㉝対象IF

対象IFをイーサネット、無線ブリッジ1～2、L2TP1～4から選択します。

##### ㉞設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# SSID設定

SSID設定

No.	SSID名	SSID	2.4GHz	5GHz	装置インターフェイス名	編集
1	test2.4G	2.4G_test	有効	有効	IF01	編集
2	SSID02		無効	無効		編集
3	SSID03		無効	無効		編集
4	SSID04		無効	無効		編集
5	SSID05		無効	無効		編集
6	SSID06		無効	無効		編集
7	SSID07		無効	無効		編集
8	SSID08		無効	無効		編集
9	test5G	5G_test	有効	有効	IF01	編集
10	SSID10		無効	無効		編集
11	SSID11		無効	無効		編集
12	SSID12		無効	無効		編集
13	SSID13		無効	無効		編集
14	SSID14		無効	無効		編集
15	SSID15		無効	無効		編集
16	SSID16		無効	無効		編集

## ①No

SSIDの番号を表示します。最大16個のSSIDを設定することが可能です。

## ②SSID名

装置内でのSSIDの名称を表示します。装置内部で設定に使用する名称であり、無線上に送出するビーコンにのせるSSIDとは異なります。

## ③SSID

無線上に送出するビーコンにのせるSSIDを表示します。

## ④2.4GHz

SSIDが2.4GHz帯で有効か無効かを示します。

## ⑤5GHz

SSIDが5GHz帯で有効か無効かを示します。

## ⑥装置インターフェイス名

SSIDが紐づけされている装置インターフェイス名を表示します。

## ⑦編集

SSIDごとに”編集”をクリックするとSSID編集画面に変わります



# SSID編集

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

装置インターフェイス設定

**SSID設定**

SSID詳細設定

無線詳細設定

Authenticationサーバー設定

Accountingサーバー設定

DNS設定

端末接続許可設定

回線設定

Web認証設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

## SSID編集

SSID名: SSID01

SSID設定

SSID名: SSID01 (0~16文字) ②

SSID: (0~32文字) ③

ブリッジインターフェイス設定

装置インターフェイス名: ④

アクセス制御

端末間通信: ☒ 許可 ☐ 禁止 ⑤

自装置アクセス: ☐ 許可 ☒ 禁止 ⑥

最大端末接続台数: 256 (1~256) ⑦

最低接続保障台数: 0 (0~256) ⑧

端末接続監視時間: 600 秒 (5~3600) ⑨

無線インターフェイス設定

2.4GHz帯: ☒ 有効 ☐ 無効 ⑩

5GHz帯: ☒ 有効 ☐ 無効 ⑪

SSID詳細設定

セキュリティ設定 ⑫

セキュリティ種別: オープン (WEPなし)

Transition Indication: 0 (0~15)

MAC認証: ☐ 有効 ☒ 無効

SSIDステルス: ☐ 有効 ☒ 無効

IEEE802.1X設定

再認証: ☒ 有効 ☐ 無効 ⑬

再認証周期: 43200 秒 (60~86400) ⑭

Authentication/Accountingサーバー状態 ⑮

Authenticationサーバー情報

無線周波数	サーバー番号	現用サーバー	サーバー切り替え時刻
2.4GHz	1	1	—
5GHz	1	1	—

Accountingサーバー情報

無線周波数	サーバー番号	現用サーバー	サーバー切り替え時刻
2.4GHz	1	1	—
5GHz	1	1	—

Authentication/Accountingサーバー設定

Authenticationサーバー番号: 1 ⑯

NAS-Identifier: (0~253文字) ⑰

NAS-Identifier(ROKH/2GHz): (0~48文字) ⑱

NAS-Identifier(ROKH/5GHz): (0~48文字) ⑲

NAS-IP-Address: 0.0.0.0 ⑳

Accounting: ☐ 有効 ☒ 無効 ㉑

Accountingサーバー番号: 1 ㉒

SSID詳細設定

戻る 設定 ㉓

#### ①SSID名

本画面の設定を行うSSID名を選択します。②で設定したSSID名が表示されます。  
SSID設定画面に戻らずにここで切り替えが可能です。

### SSID設定

#### ②SSID名

装置内でのSSIDの名称を設定します。装置内部で設定に使用する名称であり、無線上に送出するビーコンにのせるSSIDとは異なります。

#### ③SSID

無線上に送出するビーコンにのせるSSIDを設定します。

### ブリッジインターフェース設定

#### ④装置インターフェース名

本SSIDを紐づけする装置インターフェース名を選択します。本SSID(無線)と装置インターフェース設定画面で設定したインターフェース(Ethernet)のIPアドレスの紐づけします。APはこの設定に従ってIEEE802.11フレーム(無線データ)⇄Ethernetフレーム(有線データ)の変換を行います。

### アクセス制御

#### ⑤端末間通信

本SSIDに接続している端末同士の間で通信を許可するかどうかを設定します。

許可: 端末間宛のフレームを透過します。

禁止: 端末間宛のフレームを廃棄します。

※同じSSIDでも他のAPに接続している端末宛の場合、フレームは全て透過します。

#### ⑥自装置アクセス

本SSIDに接続した端末からAPの監視インターフェースへのアクセスを許可/禁止を設定します

#### ⑦最大端末接続台数

本SSIDに接続可能な端末の最大数を設定します。

※APとしての端末の最大接続数は2.4GHz帯で256台、5GHz帯で256台です。全SSIDの総数で256台です。

#### ⑧最低接続保証台数

本SSIDに接続を保証する端末の最低数を設定します。

※APとしての端末の最大接続数は2.4GHz帯で256台、5GHz帯で256台です。全SSIDの総数で256台です。

#### ⑨端末接続監視時間

接続された端末の登録時間を設定します。端末からの送信が無い場合に、本設定時間まで接続状態が継続されます。

※他のAPIに接続されたことが通知されると切断します(登録解除)。

### 無線インターフェース設定

#### ⑩2.4GHz帯

2.4GHz帯使用の有効/無効を選択します。有効にすると2.4GHz帯に本SSIDが出力されます。

※SSIDステルス有効時は端末側では見えませんが、接続可能となります。

#### ⑪5GHz帯

5GHz帯使用の有効/無効を選択します。有効にすると5GHz帯に本SSIDが出力されます。

※SSIDステルス有効時は端末側では見えませんが、接続可能となります。

### ⑫セキュリティー設定

セキュリティー種別により設定項目が変化します。セキュリティー設定の設定項目については別途説明します。

### IEEE802.1X設定

#### ⑬再認証

IEEE802.1X認証の再認証の有効/無効を設定します。

#### ⑭再認証周期

IEEE802.1X認証の再認証の周期を設定します。

### ⑮Authentication/Accountingサーバー状態

本SSIDに設定されているAuthentication/Accountingサーバーの状態を表示します。

### Authentication/Accountingサーバー設定

#### ⑯Authenticationサーバー番号

使用するAuthentication(認証)サーバー番号を選択します。別途Authenticationサーバー設定画面にて、ここで指定した番号にAuthenticationサーバーの設定が必要です。

#### ⑰NAS-Identifier

Authenticationサーバーがクライアント(本装置)を認識するための名称(NAS-ID)を設定します。Authenticationサーバー側に事前に登録が必要です。本設定もしくはNAS-IP-Addressの設定が必要です。

#### ⑱NAS-Identifier(ROKH/2GHz)

本SSIDの2.4GHzにて高速ハンドオーバー機能有効時に使用する、NAS-IDを設定します。同じモビリティドメイン(高速ハンドオーバーを行うAPのグループ)のAP同士で、ユニークな値を設定する必要があります。

#### ⑲NAS-Identifier(ROKH/5GHz)

本SSIDの5.0GHzにて高速ハンドオーバー機能有効時に使用する、NAS-IDを設定します。同じモビリティドメイン(高速ハンドオーバーを行うAPのグループ)のAP同士で、ユニークな値を設定する必要があります。

#### ⑳NAS-IP-Address

Authenticationサーバーがクライアント(本装置)を認識するためのIPアドレスを設定します。Authenticationサーバー側に事前に登録が必要です。本設定もしくは⑰NAS-Identifierの設定が必要です。

#### ㉑Accounting

Accounting(課金管理)サーバーの使用/未使用を設定します。

#### ㉒Accountingサーバー番号

使用するAccountingサーバー番号を選択します。別途Accountingサーバー設定画面にて、ここで指定した番号にAccountingサーバーの設定が必要です。

#### ㉓設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:**”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。



# SSID編集(セキュリティー設定)

## ●オープン(OWEなし含む)/WPA3エンタープライズ(Mixed、192含む)/OWE選

### セキュリティー設定

セキュリティー種別	オープン	①
Transition Indication	0	(0~15) ②
MAC認証	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	③
SSIDステルス	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	④

## ●WPA2パーソナル選択時

### セキュリティー設定

セキュリティー種別	WPA2パーソナル	①
PSK		(8~63文字/HEX64固定) ⑤
	<input type="checkbox"/> 入力確認	
PMF	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	⑥
Transition Indication	0	(0~15) ②
MAC認証	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	③
SSIDステルス	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	④

## ●WPA2エンタープライズ選択時

### セキュリティー設定

セキュリティー種別	WPA2エンタープライズ	①
PMF	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	⑥
Transition Indication	0	(0~15) ②
MAC認証	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	③
SSIDステルス	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	④

## ●WPA3パーソナル(Mixed含む)選

### セキュリティー設定

セキュリティー種別	WPA3パーソナル	①
パスワード(?)		(8~64文字) ⑦
	<input type="checkbox"/> 入力確認	
SAE認証方式	2	(0~2) ⑧
Transition Indication	0	(0~15) ②
MAC認証	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	③
SSIDステルス	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	④

#### ①セキュリティ種別

SSIDのセキュリティ種別を選択します。オープン/オープン(OWEなし)/WPA2パーソナル/WPA2エンタープライズ/WPA3パーソナル/WPA3パーソナル(Mixed)/WPA3エンタープライズ/WPA3エンタープライズ(Mixed)/WPA3エンタープライズ(192)/OWEから選択可能です。

オープン: 接続の認証は行われませんが、OWEを同時に提供する移行モード

オープン(OWEなし): 無線データを暗号化せずに送受信します。接続の認証は行われません

OWE: 接続の認証は行われませんが、暗号鍵生成と配布をユーザーごとに安全に行うことができます。公衆Wi-Fiにおける盗聴リスクを低減できます。

WPA2パーソナル: 暗号化にCCMP(AES)を使用し、認証にはPSK認証を使用する

WPA2エンタープライズ: 暗号化にCCMP(AES)を使用し、認証はIEEE802.1X認証を使用する

WPA3パーソナル: SAEハンドシェイクによる認証。PMFによる管理フレームの暗号化。データフレーム暗号化にCCMP(AES)を使用

WPA3パーソナル(Mixed): WPA2とWPA3の両方を同時に提供します

WPA3エンタープライズ: 認証はIEEE802.1X認証を使用する。暗号化はWPA3パーソナルと同じになる

WPA3エンタープライズ(Mixed): WPA2エンタープライズとWPA3エンタープライズの両方を同時に提供します

WPA3エンタープライズ(192): WPA3エンタープライズの192bit暗号オプションを使用します

※WPA3ではPMFが必ず有効となるため、端末により接続できない場合があります。

#### ②Transition indication

WPA2とWPA3の両方をサポートする「トランジションモード」を無効化し、無線端末にWPA3専用の接続を強要する際に設定します。装置からは端末へ情報通知するのみです。

設定値は以下の通りです。(15まで設定できますが、将来規格拡張対応))

1: WPA2-PSKなどのPSK認証を廃止し、WPA3-PersonalのSAEに移行(上記と同じ)

2: PSK認証とSAEを廃止し、SAE-PKに移行(本装置では未サポート)

4: WPA2-Enterprise(SHA1)を廃止し、WPA3-Enterprise(SHA256)に移行

8: Open認証を廃止し、OWE(のみ)へ移行

#### ③MAC認証

本SSIDにてMAC認証を有効/無効に設定します。本設定有効時にAuthenticationサーバーに登録したMACアドレスの端末のみが接続可能となります。別途、本画面のAuthentication/Accountingサーバー設定にてAuthenticationサーバーの設定が必要です

#### ④SSIDステルス

SSIDステルスを有効にするかしないかの設定。本設定を有効にすると①で設定したSSIDが端末では見えなくなります。SSIDを知っている人だけが接続できるようになります。

有効: ビーコンにSSID情報を付与する(誰でもSSIDを知ることができるため誰でもアクセス可能)

無効: ビーコンにSSID情報を付与しない(SSIDを知らないとアクセスできない)

#### ⑤PSK

PSKは任意の英数字(8文字以上63文字以内)を設定してください

※PSKは端末側にも設定もしくは接続時の入力が必要となります

#### ⑥PMF

PMFの有効/無効を設定します。PMFはユーザデータだけでなく無線LANの管理フレームも暗号化する機能です。

注意: 一部端末ではPMFを有効にするとAPに接続できない場合があります。

#### ⑦パスワード

SAEパスワードは任意の英数字(8文字以上~64文字以内)を設定してください

#### ⑧SAE認証方式

WPA3-PersonalにおけるPWE derivationを設定します。

0: 従来方式のみ、1: 新方式(H2E)のみ、2: 両対応(デフォルト)

# SSID詳細設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

装置インターフェイス設定

SSID設定

**SSID詳細設定**

無線詳細設定

Authenticationサーバー設定

Accountingサーバー設定

DNS設定

端末接続許可設定

回線設定

Web認証設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▼ 状態

装置情報

装置警報情報

無線情報

接続無線ブリッジ情報

接続端末情報

隣接AP検出

統計情報

▶ 保守

## SSID詳細設定

SSID名: SSID01

### 2.4GHz帯設定

SSID動作モード選択

SSID動作モード: ☒ アクセスポイント ☐ WDSサーバー ☐ WDSクライアント

無線モード選択

無線モード: ☐ 802.11b ☐ 802.11g ☐ 802.11n ☒ 802.11ax

データレート

レガシー: 最小値 (?): 1M

レガシー: 最大値 (?): 54M

マルチキャスト: auto

低品質端末制御: ☐ 有効 ☒ 無効

接続レベル: -81 dBm (-100~0)

切断レベル: -87 dBm (-100~0)

切断判定時間: 1 秒 (1~600)

再接続一時抑止時間: 0 分 (0~60)

### 5GHz帯設定

SSID動作モード選択

SSID動作モード: ☒ アクセスポイント ☐ WDSサーバー ☐ WDSクライアント

無線モード選択

無線モード: ☐ 802.11a ☐ 802.11n ☐ 802.11ac ☒ 802.11ax

データレート

レガシー: 最小値: 6M

レガシー: 最大値: 54M

マルチキャスト: auto

低品質端末制御: ☐ 有効 ☒ 無効

接続レベル: -81 dBm (-100~0)

切断レベル: -87 dBm (-100~0)

切断判定時間: 1 秒 (1~600)

再接続一時抑止時間: 0 分 (0~60)

### RADIUS属性設定

Location-Name: (0~247文字)

Service-Type: 2 (0~65535)

Session-Timeout: ☒ 有効 ☐ 無効

### プロキシARP設定

プロキシARP: ☐ 有効 ☒ 無効

プロキシARPモード: ☐ 未学習ARP透過 ☒ 未学習ARP廃棄

### 5GHz帯誘導制御設定

5GHz帯誘導制御設定: ☐ 有効 ☒ 無効

チャンネル利用率: 00 % (0~100)

RSSIレベル: -65 dBm (-100~0)

※ チャンネル利用率とRSSIレベルは全SSID共通の設定となります。

### 送信ビームフォーミング制御設定

送信ビームフォーミング制御モード: ☐ なし ☒ Explicit Feedback

### 上り帯域制限設定

上り帯域制限設定: ☐ 有効 ☒ 無効

帯域制限値設定: 1201 Mbps (1~1201)

### 高速ハンドオーバー設定

高速ハンドオーバー動作(2.4GHz): ☐ 有効 ☒ 無効

高速ハンドオーバー動作(5GHz): ☐ 有効 ☒ 無効

モビリティドメイン: 0000 (0000~FFFF)

暗号鍵: (8~63文字/HEX64固定)

☐ 入力確認

### MBO動作設定

MBO動作: ☒ 有効 ☐ 無効

※ MBO動作が有効な場合、PMFは設定によらず有効になります。

戻る 設定

#### ①SSID名

設定を行うSSID名を選択します。SSID名はSSID編集にて設定したものが表示されます。

#### 2.4GHz帯設定

##### ②SSID動作モード

SSIDの動作モードを選択します。通常アクセスポイント、無線ブリッジ使用時はWDSサーバーもしくはWDSクライアントを選択します。

##### ③無線モード選択

使用する無線LAN規格を選択します。特に理由がなければ802.11axを選択します。

#### データレート

##### ④レガシー: 最小値

データレートの最小値を選択します。11b時: 1M/2M/5.5M/11M 11g時: 6M/12M/24M

##### ⑤レガシー: 最大値

データレートの最大値を選択します。11b時: 1M/2M/5.5M/11M 11g時: 6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M

##### ⑥マルチキャスト

マルチキャストのレートを選択します。11b時: auto/1M/2M/5.5M/11M 11g時: auto/6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M

##### ⑦低品質端末制御

低品質端末制御機能の有効/無効を設定します。本機能を使用することでスムーズなハンドオーバー(隣のAPへの接続切り替え)を行うことができます。

##### ⑧接続レベル

端末を接続するAPでの受信レベルを設定します。本設定により十分な受信レベルの端末のみを接続することができます。

##### ⑨切断レベル

APに接続中の端末を切断するAPでの受信レベルを設定します。本設定により十分な受信レベルを満たさない端末を切断することができます。端末は切断されることにより、より強い受信レベルのAPへ再接続します。

**注意: 切断レベルは接続レベルより低い値に設定してください(6dBm以上低くすることを推奨)。**

##### ⑩切断判定時間

端末からの受信レベルが切断レベル設定以下となってから切断するまでの判定時間を設定します。

##### ⑪再接続一次抑止時間

端末切断後、同じ端末が再接続しないように一時的に接続させない時間を設定します。

#### 5GHz帯設定

##### ⑫SSID動作モード

SSIDの動作モードを選択します。通常アクセスポイント、無線ブリッジ使用時はWDSサーバーもしくはWDSクライアントを選択します。

##### ⑬無線モード選択

使用する無線LAN規格を選択します。特に理由がなければ802.11axを選択します。

#### データレート

##### ⑭レガシー: 最小値

データレートの最小値を選択します。11a時: 6M/12M/24M

##### ⑮レガシー: 最大値

データレートの最大値を選択します。11a時: 6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M

#### ⑩マルチキャスト

マルチキャストのレートを選択します。11a時:auto/6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M

#### ⑪低品質端末制御

低品質端末制御機能の有効/無効を設定します。本機能を使用することでスムーズなハンドオーバー(隣のAPへの接続切り替え)を行うことができます。

#### ⑫接続レベル

端末を接続するAPでの受信レベルを設定します。本設定により十分な受信レベルの端末のみを接続することができます。

#### ⑬切断レベル

APに接続中の端末を切断するAPでの受信レベルを設定します。本設定により十分な受信レベルを満たさない端末を切断することができます。端末は切断されることにより、より強い受信レベルのAPへ再接続します。

**注意:切断レベルは接続レベルより低い値に設定してください(6dBm以上低くすることを推奨)。**

#### ⑭切断判定時間

端末からの受信レベルが切断レベル設定以下となってから切断するまでの判定時間を設定します。

#### ⑮再接続一次抑止時間

端末切断後、同じ端末が再接続しないように一時的に接続させない時間を設定します。

### RADIUS属性設定

#### ⑯Location-Name

RADIUSサーバー(Authenticationサーバー)へ通知するLocation-Nameを設定します

#### ⑰Service-Type

RADIUSサーバー(Authenticationサーバー)へ通知するService-Typeを設定します

#### ⑱Session-Timeout

RADIUSサーバー(Authenticationサーバー)から通知される属性設定(Suppliant(無線端末)からの応答待ちタイムアウト時間・再認証時間)に従うかを設定します

### プロキシ-ARP設定

#### ⑲プロキシ-ARP

プロキシARPの有効/無効を設定します。同一サブネットのIPアドレスに対するARP要求に対し、本装置が自身のMACアドレスで代理応答します。サブネット内のホストが直接通信できない特殊なネットワークに接続されたインターフェースで使います。

#### ⑳プロキシ-ARPモード

プロキシARP有効時の動作モードを選択します

### ⑳5GHz帯誘導制御設定

2.4G/5G両方の周波数帯に対応した端末に対し、混雑した2.4GHz帯の接続を拒否し、混雑の少ない5GHz帯へ誘導する機能の有効/無効を設定します。

※指定SSIDが2.4G/5G帯の両方共有効である必要があります

※本機能は端末MACアドレス制限とは併用できません

#### ㉑チャンネル利用率

5GHz帯誘導制御設定が有効時、2.4GHz帯の混雑の有無を判断するチャンネル利用率閾値を設定します。

#### ㉒RSSIレベル

5GHz帯誘導制御設定が有効時、2.4GHz帯のチャンネル利用率が混雑かつ5GHz帯でのRSSIレベルが本設定以上である場合に誘導対象とします。

### 送信ビームフォーミング制御設定

#### ㉓送信ビームフォーミング制御モード

送信ビームフォーミング制御モードを設定します。エクспリシットビームフォーミングはAPと端末間の電波の強さ等の情報交換から一を特定し電波を送出します。

※端末がビームフォーミングに対応している必要があります。

#### ㉔上り帯域制限設定

上り帯域制限の有効/無効を設定します。

#### ㉕帯域制限値設定

上り帯域制限帯域をMbps単位で設定します。

## 高速ハンドオーバー設定

### ③③高速ハンドオーバー動作(2.4G)

2.4G帯の高速ハンドオーバー動作の有効/無効を設定します。

※高速ハンドオーバー機能を利用するためには、接続端末が IEEE 規格の FT 機能に対応している必要があります。

※SSID設定にあるNAS-Identifier(ROKH/2GHz)の設定も必要です。

### ③④高速ハンドオーバー動作(5G)

5G帯の高速ハンドオーバー動作の有効/無効を設定します。

※高速ハンドオーバー機能を利用するためには、接続端末が IEEE 規格の FT 機能に対応している必要があります。

※SSID設定にあるNAS-Identifier(ROKH/5GHz)の設定も必要です。

### ③⑤モビリティドメイン

4桁の16進数を設定する。端末は同じモビリティドメインを持つAP間でIEEE 802.11r 高速ハンドオーバーを行うことができる。ハンドオーバーを行うAPIはそれぞれ同一のモビリティドメインを設定してください。

### ③⑥暗号鍵

同じモビリティドメインでの共通の暗号鍵を設定します。ハンドオーバーを行うAPはそれぞれ同一の暗号鍵を設定してください。

## MBO動作設定

### ③⑦MBO動作

MBO動作の有効/無効を設定します。

一部の古い端末でMBO機能有効かつPMF機能無効だと接続できない仕様の対処設定です。

### ③⑧設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。



# 無線詳細設定(2.4GHz帯)

## ①使用周波数帯

設定する周波数帯(2.4GHz/5GHz)を選択します。ここでは2.4GHz帯について説明します。

## 運用動作モード

### ②無線インターフェイス

使用周波数帯の有効/無効を設定します。使用する場合は有効に設定してください。

### ③ビーコン間隔

ビーコンの間隔を設定します。端末はビーコンにより利用できるチャンネルの情報、及びSSIDの情報を得ています。APからはSSIDの数のビーコンが送出されるため、SSIDの設定数によりビーコン間隔の最小値が制限されます。

### ④DTIM間隔

DTIMの間隔を設定します。

端末の動作モードには「アクティブ・モード」と「パワー・セーブ・モード」の2種類があります。アクティブ・モードは送受信回路に常に電源が供給されている状態であり、パワー・セーブ・モードは間欠的に仮眠状態となり電力を節約するモードです。端末がパワー・セーブ・モードになると常にデータを受信できる状態ではないため、APは端末向けのデータやマルチキャスト/ブロードキャスト・パケットがある場合、ビーコンに含まれるTIM (Traffic Indication Message) を使ってデータがあることを通知し、無線クライアントが受信可能状態になってからデータを送信します。データがあることを通知するTIMをDTIM (Delivery Traffic Indication Message) と呼び、DTIMが含まれる周期はDTIM間隔で示されます。例えば、DTIM間隔が5ならば、ビーコン5個間隔でDTIMが送信されるという意味となります。

## チャンネル制御

### ⑤チャンネル制御モード

2.4GHz帯の使用チャンネルの選択方法を選択します。

固定: 使用チャンネル番号で設定したチャンネルを使用する。

自動: APが周囲の状況を検知して、自動的にチャンネルを選択する。

自動2: 最初は指定チャンネルを選択、以降は自動設定と同じ動作。

固定設定時は”使用チャンネル番号”設定により選択されたチャンネルを使用します。自動(自動2)設定時は”選択対象チャンネル番号”にて選択されているチャンネルから周囲状況によりAPが自動で選択します。

### ⑥使用チャンネル番号

”チャンネル制御モード”固定時および自動2時にAPが使用するチャンネルを設定します。APは指定されたチャンネルを使用します。

### ⑦選択対象チャンネル番号

”チャンネル制御モード”自動時にAPが使用するチャンネルを選択設定します。APは選択されたチャンネルから周囲状況により選択します。2.4GHz帯で干渉せずに同時に使用できる最大チャンネル数は3です。複数のAPを近くに設置する場合はチャンネル1、6、11を選択してください。

### ⑧最大周波数帯域幅

最大周波数帯域幅(20MHz/40MHz)を選択します。40MHzを選択すると、40MHz(2チャンネル分)の帯域を使用することができます。APは周囲状況により20MHz/40MHzの切り替えを自動で行います。

※40MHzを保証するものではありません

## 送信出力設定

### ⑨出力レベル

送信出力レベルを設定します。無線モードにより最大送信出力レベルは異なります。画面上部の最大送信出力一覧をクリックすると確認できます。最大送信出力レベルを超える設定をした場合、最大送信出力レベルで出力されます。

※他APへ干渉が発生している場合、送信出力レベルを調整することで干渉が緩和されることがあります。

## プロテクション

### ⑩ERPプロテクション動作

プロテクション動作の動作モードを選択します。

OFF: プロテクション機能は動作しません。

CTS-to-self: 自分自身(AP)にCTSを送信し、他の端末にこれから送信することを通知することで衝突を回避する。

RTS/CTS: 端末がアクセスポイントにあらかじめ通信することを通知(RTS)し、APから端末に通信の許可(CTS)を与えることで衝突を回避する。

## OBSSスキャン設定

### ⑪OBSSスキャン動作

OBSSスキャン動作の有効/無効を設定します。

OBSSスキャンは、APが40MHz帯域で動作している場合、定期的に周囲状況を検索する。周囲の802.11n規格に非対応の無線ネットワーク及び40MHz帯域を許容しない無線ネットワークを発見するために行われます。検出した場合、20MHz帯域に切り替えます。

## 最大端末接続台数

### ⑫最大端末接続台数

2.4G帯に接続可能な最大接続台数を設定します。

## ATF制御

### ⑬ATF

ATF(Air Time Fairness)制御の有効/無効を設定します。多端末接続時の機会公平性の制御を行います。

ATFは2.4G/5G共通の設定です。

### ⑭設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:** ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。



# 無線詳細設定(5GHz帯)

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

装置インターフェイス設定

SSID設定

**SSID詳細設定**

無線詳細設定

Authenticationサーバー設定

Accountingサーバー設定

DNS転送設定

端末接続許可設定

回線設定

Web認証設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

## 無線詳細設定

使用周波数帯: 5GHz 最大送信出力一覧: 11b/g/n 11a/n 11ac 11ax

運用動作モード

無線インターフェイス: ☒ 有効 ☐ 無効

ビーコン間隔(?): 100 ミリ秒 (40~2000)

DTIM間隔: 1 (1~255)

チャンネル制御

チャンネル制御モード: ☒ 固定 ☐ 自動 ☐ 自動2

使用チャンネル番号: 36

選択可能帯域: W52/W53/W56

選択対象チャンネル番号(?):

W52	36	40	44	48
W53	52	56	60	64
W56	100	104	108	112
	116	120	124	128
	132	136	140	144

ZW-DFS制御: ☐ 有効 ☒ 無効

自動リフレッシュモード: 無効

自動リフレッシュ時刻: 3 時 (0~23)

自動リフレッシュサイクル: 毎日

最大周波数帯域幅: ☐ 20MHz ☐ 40MHz ☒ 80MHz

送信出力設定

出力レベル(?): 22 dBm (1~22)

干渉検出設定

干渉検出閾値: 80 % (1~100)

最大端末接続台数

最大端末接続台数: 256 台 (1~256)

ATF制御

ATF: ☐ 有効 ☒ 無効

※ ATF制御は2.4GHz/5GHz共通の設定となります。

設定

## ①使用周波数帯

設定する周波数帯(2.4GHz/5GHz)を選択します。ここでは5GHz帯について説明します。

## 運用動作モード

### ②無線インターフェース

使用周波数帯の有効/無効を設定します。使用する場合は有効に設定してください。

### ③ビーコン間隔

ビーコンの間隔を設定します。端末はビーコンにより利用できるチャンネルの情報、及びSSIDの情報を得ています。APからはSSIDの数のビーコンが送出されるため、SSIDの設定数によりビーコン間隔の最小値が制限されます。

#### ④DTIM間隔

DTIMの間隔を設定します。

端末の動作モードには「アクティブ・モード」と「パワー・セーブ・モード」の2種類があります。アクティブ・モードは送受信回路に常に電源が供給されている状態であり、パワー・セーブ・モードは間欠的に仮眠状態となり電力を節約するモードです。端末がパワー・セーブ・モードになると常にデータを受信できる状態ではないため、APは端末向けのデータやマルチキャスト/ブロードキャスト・パケットがある場合、ビーコンに含まれるTIM(Traffic Indication Message)を使ってデータがあることを通知し、無線クライアントが受信可能状態になってからデータを送信します。データがあることを通知するTIMをDTIM(Delivery Traffic Indication Message)と呼び、DTIMが含まれる周期はDTIM間隔で示されます。例えば、DTIM間隔が5ならば、ビーコン5個間隔でDTIMが送信されるという意味となります。

#### チャンネル制御

##### ⑤チャンネル制御モード

5GHz帯の使用チャンネルの選択方法を選択します。

固定: 使用チャンネル番号で設定したチャンネルを使用する。

自動: APが周囲の状況を検知して、自動的にチャンネルを選択する。

自動2: 最初は指定チャンネルを選択、以降は自動設定と同じ動作。

固定設定時は”使用チャンネル番号”設定により選択されたチャンネルを使用します。自動(自動2)設定時は”選択対象チャンネル番号”にて選択されているチャンネルから周囲状況によりAPが自動で選択します。

##### ⑥使用チャンネル番号

”チャンネル制御モード”固定時もしくは自動2時にAPが使用するチャンネルを設定します。APは指定されたチャンネルを使用します。

##### ⑦選択可能帯域

”チャンネル制御モード”自動時にAPが使用するチャンネルの帯域を選択設定します。W52、W53、W56から使用する帯域を選択します。W52、W53、W56の組み合わせ7通りから選択可能です。

5GHz帯は屋内では全てのチャンネルが使用可能ですが、屋外ではW56のみ使用可能です。本APIは屋内機器ですので屋内では全てのチャンネルが使用可能ですが、屋外に設置する場合はW56のみ使用してください(省令で定められています)。

※注意: W53、W56の周波数帯は気象レーダー等でも使用されており、気象レーダー等が動作していることを検知するとチャンネルを自動的に変更するDFS機能を有しています(変更先がない場合は停波します)。

##### ⑧選択対象チャンネル番号

”チャンネル制御モード”自動時にAPが使用するチャンネルを選択設定します。APは選択されたチャンネルから周囲状況により選択します。

##### ⑨ZW-DFS制御

気象レーダなどの検出時のDFS動作時に、停波させずに運用継続させる機能の有効/無効を設定します。

※本機能を有効にしても、停波を完全に防ぐものではありません。レーダー波の発生状況によっては停波する事があります。

##### ⑩自動リフレッシュモード

ZW-DFS制御により、AP同士の使用チャンネルが特定のチャンネルに偏らないよう、定期的にチャンネル再選択を行う自動リフレッシュ機能の有効/無効を設定します。

※自動リフレッシュモードを利用するには、装置の時刻設定が必要です。

##### ⑪自動リフレッシュ時刻

自動リフレッシュを行う時刻を設定します。

##### ⑫自動リフレッシュサイクル

自動リフレッシュを行う曜日を設定します。

##### ⑬最大周波数帯域幅

最大周波数帯域幅(20MHz/40MHz/80MHz)を選択します。80MHzを選択すると、80MHz(4チャンネル分)の帯域を使用することができます。APは周囲状況により20MHz/40MHz/80MHzの切り替えを自動で行います。

※80MHzを保証するものではありません。

## 送信出力設定

### ⑭出力レベル

送信出力レベルを設定します。無線モードにより最大送信出力レベルは異なります。画面上部の最大送信出力一覧をクリックすると確認できます。最大送信出力レベルを超える設定をした場合、最大送信出力レベルで出力されます。

※他APへ干渉が発生している場合、送信出力レベルを調整することで干渉が緩和されることがあります。

## 干渉検出設定

### ⑮干渉検出閾値

5GHz帯の干渉を検出する閾値を設定します。5GHz帯域の使用率にて設定します。

## 最大端末接続台数

### ⑯最大端末接続台数

5GHz帯に接続可能な最大接続台数を設定します。

## ATF制御

### ⑰ATF

ATF(Air Time Fairness)制御の有効/無効を設定します。多端末接続時の機会公平性の制御を行います。ATFは2.4G/5G共通の設定です。

※ATF有効の場合、接続端末数が最大60台となります。

### ⑱設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# Authenticationサーバー設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

装置インターフェイス設定

SSID設定

SSID詳細設定

無線詳細設定

Authenticationサーバー設定

Accountingサーバー設定

DNS設定

端末接続許可設定

回線設定

Web認証設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

Authenticationサーバー設定

Authenticationサーバー番号 1

サーバー#1設定 ●有効 ○無効

サーバーIPアドレス 10.129.34.14

サーバーポート番号 1812 (0~65535)

共有秘密鍵 ..... (0~64文字)

☐ 入力確認

サーバー#2設定 ○有効 ●無効

サーバーIPアドレス 0.0.0.0

サーバーポート番号 1812 (0~65535)

共有秘密鍵 ..... (0~64文字)

☐ 入力確認

設定

Authenticationサーバーリスト

No.	サーバー番号	接続	IPアドレス	ポート番号
1	1	有効	10.129.34.14	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
2	1	有効	172.3.244.54	1812
	2	有効	172.3.244.55	1812
3	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
4	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
5	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
6	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
7	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
8	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
9	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
10	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
途中省略				
31	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812
32	1	無効	0.0.0.0	1812
	2	無効	0.0.0.0	1812

## ① Authenticationサーバー番号

設定を行うAuthenticationサーバーの番号を選択します。AuthenticationサーバーリストのNo1~32のどこに設定するか選択します。SSID設定(編集)画面にて選択するAuthenticationサーバーの番号となります。

## ② サーバー#1設定/サーバー#2設定

サーバー#1および#2の有効/無効を設定します。Authenticationサーバーを二重化することでシステムの信頼性を向上できます。APは使用中のAuthenticationサーバーが使用できなくなっても自動的に予備系に切り替えます。

③サーバーIPアドレス

AuthenticationサーバーのIPアドレスを設定します。

④サーバーポート番号

Authenticationサーバーで使用するポート番号を設定します。初期値: 1812 (RADIUS authentication protocol, radius) が設定されています。通常、変更不要です。

⑤共有秘密鍵

Authenticationサーバーとの共有秘密鍵を設定します。接続するAuthenticationサーバーに設定している共有秘密鍵と同じものを設定してください。

⑥設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意: ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

⑦Authenticationサーバーリスト

Authenticationサーバーの設定状態を表示します。

# Accountingサーバー設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

装置インターフェイス設定

SSID設定

SSID詳細設定

無線詳細設定

Authenticationサーバー設定

Accountingサーバー設定

DNS設定

端末接続許可設定

回線設定

Web認証設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

Accountingサーバー設定

Accountingサーバー番号 1

サーバー#1設定 ●有効 ○無効

サーバーIPアドレス 101.0.12.77

サーバーポート番号 1813 (0~65535)

共有秘密鍵 (0~64文字)

入力確認

サーバー#2設定 ○有効 ●無効

サーバーIPアドレス 0.0.0.0

サーバーポート番号 1813 (0~65535)

共有秘密鍵 (0~64文字)

入力確認

設定

Accountingサーバーリスト

No.	サーバー番号	接続	IPアドレス	ポート番号
1	1	有効	101.0.12.77	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
2	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
3	1	有効	95.124.2.190	1813
	2	有効	95.124.2.191	1813
4	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
5	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
6	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
7	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
8	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
9	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
10	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
途中省略				
31	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
32	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813

## ①Accountingサーバー番号

設定を行うAccountingサーバーの番号を選択します。AccountingサーバーリストのNo1～32のどこに設定するか選択します。SSID設定(編集)画面にて選択するAccountingサーバーの番号となります。

## ②サーバー#1設定/サーバー#2設定

サーバー#1および#2の有効/無効を設定します。Accountingサーバーを二重化することでシステムの信頼性を向上できます。APは使用中のAccountingサーバーが使用できなくなっても自動的に予備系に切り替えます。



### ③サーバーIPアドレス

AccountingサーバーのIPアドレスを設定します。

### ④サーバーポート番号

Accountingサーバーで使用するポート番号を設定します。初期値: 1813 (RADIUS accounting protocol, radius) が設定されています。通常、変更不要です。

### ⑤共有秘密鍵

Accountingサーバーとの共有秘密鍵を設定します。接続するAccountingサーバーに設定している共有秘密鍵と同じものを設定してください。

### ⑥設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意: ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

### ⑦Accountingサーバーリスト

Accountingサーバーの設定状態を表示します。

# DNS設定

The screenshot shows the Panasonic DNS configuration interface. On the left is a navigation menu with categories like '簡単設定' (Easy Setup), '無線ネットワーク設定' (Wireless Network Settings), 'ネットワーク設定' (Network Settings), 'アクセス設定' (Access Settings), 'システム設定' (System Settings), '状態' (Status), and '保守' (Maintenance). Under '無線ネットワーク設定', 'DNS設定' (DNS Settings) is highlighted with a red box. The main area is titled 'DNS設定' (1). It contains a 'DNS転送設定' (DNS Forwarding Settings) section with a dropdown menu set to '1'. Below this are two input fields: 'ドメイン名' (Domain Name) set to 'www.panasonic.co.jp' (2) and '転送先DNSサーバーIPアドレス' (Destination DNS Server IP Address) set to '10.0.210.5' (3). A '設定' (Settings) button is located below these fields (4). Below the settings section is a 'DNS転送設定一覧' (DNS Forwarding Settings List) table (5). The table has columns for 'No.', 'ドメイン名', '転送先DNSサーバーIPアドレス', and a '削除' (Delete) button. The first row (No. 1) contains the same data as the settings section. The '削除' button for the first row is highlighted with a red arrow and the number 6. The table lists 16 rows in total, with rows 2 through 16 having empty fields and '0.0.0.0' as the IP address.

No.	ドメイン名	転送先DNSサーバーIPアドレス	削除
1	www.panasonic.co.jp	10.0.210.5	削除
2		0.0.0.0	削除
3		0.0.0.0	削除
4		0.0.0.0	削除
5		0.0.0.0	削除
6		0.0.0.0	削除
7		0.0.0.0	削除
8		0.0.0.0	削除
9		0.0.0.0	削除
10		0.0.0.0	削除
11		0.0.0.0	削除
12		0.0.0.0	削除
13		0.0.0.0	削除
14		0.0.0.0	削除
15		0.0.0.0	削除
16		0.0.0.0	削除

本設定によりDNSサーバーへの問い合わせなしに直接指定のIPアドレスへアクセスできます。

## ①DNS転送設定

設定を行う番号を選択します。DNS転送設定一覧のNo1～16のどこに設定するか選択します。

## ②ドメイン名

転送するドメイン名を設定します。

## ③転送先DNSサーバーIPアドレス

転送先のIPアドレスを設定します。

## ④設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意: ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

## ⑤DNS転送設定一覧

DNS転送設定状態が表示されます。

## ⑥削除

クリックすると設定が削除されます。



# 端末接続許可設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

- 装置インターフェイス設定
- SSID設定
- SSID詳細設定
- 無線詳細設定
- Authenticationサーバー設定
- Accountingサーバー設定
- DNS設定
- 端末接続許可設定**
- 回線設定
- Web認証設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

## ① 端末接続許可設定

SSID名: test2.4G

端末MACアドレス制限

アドレス制限: ☐ 有効 ☒ 無効 ②

設定 ③

接続許可端末MACアドレス ④

08:00:23:fd:19:f6	

追加 ⑤

接続許可端末一覧 ⑥

MACアドレス	削除
08:00:23:fd:19:f5	<input type="checkbox"/>

RADIUSサーバーを使用せずにAPにて指定したMACアドレスの端末のみを接続許可することができます。

### ① SSID名

端末接続許可設定を行うSSIDを選択します。

### ② 端末MACアドレス制限

MACアドレスによる接続制限を行うかの設定を行います。本設定有効時、本画面で設定されたMACアドレスのみが接続可能となります。

### ③ 設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:** ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

### ④ 接続許可端末MACアドレス

接続を許可する端末のMACアドレスを入力します。赤枠部分をクリックして入力してください。

### ⑤ 追加

追加をクリックすると接続許可端末MACアドレスに入力したMACアドレスが追加され、下部の接続許可端末一覧に表示されます。

### ⑥ 接続許可端末一覧

登録されている接続許可端末のMACアドレスを表示します、MACアドレス横のチェックをして削除ボタンをクリックすると削除されます。

# 回線設定

WAN回線が切断した状態を判断し、無線インターフェースを閉塞する場合に本設定を使用します。  
監視対象はEthernetのリンク状態、L2TPトンネル状態、Ipsecトンネルの接続状態です。

## WAN回線情報

### ①WAN回線

現在のWAN回線を表示します。イーサネット/無線ブリッジ/未指定

### ②通信状態

現在のWAN回線の状態を表示します。リンク確立/リンク断

## リンクパススルー情報

### ③検出状態

リンクパススルーの現在の検出状態を表示します。検出/未検出

### ④検出時刻

リンクパススルーを検出した日時を表示します

## リンク監視

### ⑤監視先アドレス

リンク監視のためにキープアライブを監視する対象のIPアドレスを設定します。

### ⑥リセットターゲット

スカイブリッジ：セイコーのモバイルルータを指定する場合に設定します。

## WAN回線設定

### ⑦WAN回線

監視するWAN回線を設定します。イーサネット/無線ブリッジ/未指定から選択します。

## リンクパススルー設定

### ⑧リンクパススルー機能

リンクパススルー機能の有効/無効を選択します

### ⑨検出遅延時間

検出遅延時間を設定します。WAN回線の切断検出から何秒後に無線インターフェースを閉塞するかの設定

### ⑩設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意: ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# Web認証設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

- 装置インターフェイス設定
- SSID設定
- 無線詳細設定
- Authenticationサーバー設定
- Accountingサーバー設定
- DNS設定
- 端末接続許可設定
- 回線設定
- Web認証設定**

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

## Web認証設定

Web認証設定一覧

No.	装置インターフェイス名	状態	セキュリティ		
1	IF01	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
2	IF02	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
3	IF03	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
4	IF04	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
5	IF05	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
6	IF06	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
7	IF07	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
8	IF08	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
9	IF09	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
10	IF10	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
11	IF11	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
12	IF12	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
13	IF13	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
14	IF14	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
15	IF15	無効	https	Web認証編集 ▼	編集
16	IF16	無効	https	Web認証編集 ▼	編集

Web認証設定状態を表示します。装置インターフェイス毎に編集ボタンから編集を行います。

### ①装置インターフェイス名

装置インターフェイス名を表示します。

### ②状態

当該装置インターフェイスのWeb認証設定の状態(有効/無効)を表示します。

### ③セキュリティ

Web認証セキュリティの設定状態(http/https)を表示します。

④⑤の編集時に編集を行う画面(Web認証編集/認証除外設定)を選択を行います。Web認証編集/認証除外設定については後述します。

### ⑤編集

”編集”をクリックすると④で選択された画面に遷移します。

# Web認証編集

The screenshot shows the Panasonic Web Authentication Edit interface. On the left is a navigation menu with categories like '簡易設定' (Easy Settings), '無線ネットワーク設定' (Wireless Network Settings), 'ネットワーク設定' (Network Settings), 'アクセス設定' (Access Settings), 'システム設定' (System Settings), '状態' (Status), and '保守' (Maintenance). Under '無線ネットワーク設定', 'Web認証設定' (Web Authentication Settings) is highlighted. The main area is titled 'Web認証編集' (Web Authentication Edit) and contains two main sections: 'Web認証設定' (Web Authentication Settings) and 'Authentication/Accountingサーバー設定' (Authentication/Accounting Server Settings). The 'Web認証設定' section includes fields for 'Web認証' (Web Authentication) status (有効/無効), 'アクセス先URL (?)' (Access URL), 'Web認証ページURL (?)' (Web Authentication Page URL), 'Web認証ポート番号' (Web Authentication Port Number), 'Web認証キー' (Web Authentication Key), 'Web認証セキュリティ' (Web Authentication Security), and 'Web認証APIアドレス' (Web Authentication API Address). The 'Authentication/Accountingサーバー設定' section includes 'Authenticationサーバー設定' (Authentication Server Settings) with fields for 'サーバー#1 IPアドレス', 'サーバー#2 IPアドレス', 'サーバーポート番号', and '共有秘密鍵', and 'Accountingサーバー設定' (Accounting Server Settings) with fields for 'NAS-Identifier', 'NAS-IP-Address', 'Location-Name', 'Accounting機能' (Accounting Function), and 'Accountingサーバーポート番号'. Red arrows and numbers 1 through 17 point to specific elements: 1 points to the '装置インターフェイス名' (Device Interface Name) dropdown; 2 points to the 'Web認証' status; 3 points to the 'アクセス先URL' field; 4 points to the 'Web認証ページURL' field; 5 points to the 'Web認証ポート番号' field; 6 points to the 'Web認証キー' field; 7 points to the 'Web認証セキュリティ' radio buttons; 8 points to the 'Web認証APIアドレス' field; 9 points to the 'サーバー#1 IPアドレス' field; 10 points to the 'サーバー#2 IPアドレス' field; 11 points to the 'サーバーポート番号' field; 12 points to the '共有秘密鍵' field; 13 points to the 'NAS-Identifier' field; 14 points to the 'NAS-IP-Address' field; 15 points to the 'Accounting機能' radio buttons; 16 points to the 'Accountingサーバーポート番号' field; and 17 points to the '設定' (Settings) button at the bottom.

## ①装置インターフェイス名

編集を行う装置インターフェイス名を選択します。選択/表示している装置インターフェイスのWeb認証編集を行います。

## Web認証設定

### ②Web認証

Web認証機能の有効/無効を設定します。

### ③アクセス先URL

認証後のトップページのURLを設定します。未入力の場合、アクセスしたURLへリダイレクトします。

### ④Web認証ページURL

Web認証ページのURLを設定します。未入力の場合、本装置内蔵の認証ページ(Webログイン画面)が使用されます。

### ⑤Web認証ポート番号

ポート番号を設定します。

### ⑥Web認証キー

Web認証キーを設定します。外部認証サーバの認証ページ(Webログイン画面)を使用する場合は、外部サーバと同じ値を設定します。

### ⑦Web認証セキュリティ

Web認証をhttpで行うかhttpsで行うかの設定をします。

#### ⑧Web認証APIアドレス

RFC7710で定義された必要情報を、端末に通知するための設定です。  
特別対応のための設定項目にて、設定は不要です。

#### Authentication/Accountingサーバー設定

##### ⑨サーバー#x IPアドレス

Web認証用のAuthenticationサーバーのIPアドレスを設定します。サーバーを1台だけ使用する場合はサーバー#1IPアドレスにIPアドレスを設定してください。2台使用する場合は#1、#2にそれぞれ設定してください。

##### ⑩サーバーポート番号

ポート番号を設定します(初期値:1812)。古いサーバーの場合1645を使用する場合があります。

##### ⑪共有秘密鍵

Authenticationサーバーとの共有秘密鍵を設定します。Authenticationサーバーと同じ値を設定します。

##### ⑫NAS-Identifier

Access-Request を送信したネットワークアクセスサーバを識別する文字列。本装置のIPアドレスを設定します。

##### ⑬NAS-IP-Address

認証を要求しているネットワークアクセスサーバのIP アドレスを示します。

##### ⑭Location-Name

Authenticationサーバーへ通知するLocation-Nameを設定します。

##### ⑮Accounting機能

Web認証サーバを同時にAccountingサーバーとして利用するかを設定します。

##### ⑯Accountingサーバーポート番号

Accountingサーバーで使用するポート番号を設定します。初期値:1813が設定されています。通常、変更不要です

##### ⑰設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# 認証除外設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶簡易設定

▼無線ネットワーク設定

- 装置インターフェイス設定
- SSID設定
- SSID詳細設定
- 無線詳細設定
- Authenticationサーバー設定
- Accountingサーバー設定
- DNS設定
- 端末接続許可設定
- 回線設定
- Web認証設定**

▶ネットワーク設定

▶アクセス設定

▶システム設定

▶状態

▶保守

## 認証除外設定 ①

装置インターフェイス名 IF01

認証除外設定 1 ②

IPアドレス[/プレフィックス]/ドメイン名 ③

戻る 設定 ④

認証除外設定一覧

No.	IPアドレス[/プレフィックス]/ドメイン名	全削除 ⑤
1		削除 ⑥
2		削除
3		削除
4		削除
5		削除
6		削除
7		削除
8		削除
9		削除
10		削除

途中省略

98		削除
99		削除
100		削除

### ①装置インターフェイス

認証除外設定を行う装置インターフェイスを示します。

### ②認証除外設定

認証除外設定を行う番号を選択します。100個の設定が可能であり1～100から選択します。

### ③IPアドレス【/プレフィックス】/ドメイン名

認証除外するIPアドレス/ドメイン名を設定します。プレフィックスをつけることで、アドレス範囲を指定することも可能です。

### ④設定

”設定”をクリックすると指定した番号に認証除外設定がされます。認証除外設定一覧に設定内容が表示されます。

画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:** ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

### ⑤全削除

全ての認定除外設定を削除します。

### ⑥削除

指定の認定除外設定を削除します。



# PPP設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

簡単設定  
無線ネットワーク設定  
ネットワーク設定  
  **PPP設定**  
  L2TP設定  
  IPsec設定  
  イーサネットポート情報  
  ルーティング設定  
  ルート設定  
アクセス設定  
システム設定  
状態  
保守

## PPP設定

装置インターフェイス名 IF01 ▼

装置インターフェイス情報

IP動作モード 固定設定

自装置IPアドレス

接続先IPアドレス

DNS1

DNS2

PPPoE設定

MTU 1454 バイト (1454~1492)

設定

PPPoE使用時のMTU設定および接続状態を表示します。

### ①装置インターフェイス名

PPP設定を行う装置インターフェイス名を選択します。

### ②装置インターフェイス情報

①で選択した装置インターフェイスの情報を表示します。PPPoE接続時に取得したIPアドレス等が表示されます。

### PPPoE設定

#### ③MTU

Ethernetフレーム変換前のデータの最大送信バイト数を設定します。回線のMTU値に合わせて設定してください。不明な場合は1492を設定してください。

#### ④設定

”設定”をクリックすると指定した番号に認証除外設定がされます。認証除外設定一覧に設定内容が表示されます。

画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:** ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# L2TP設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▼ ネットワーク設定

PPP設定

**L2TP設定**

IPsec設定

イーサネットポート情報

ルーティング設定

ルート設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

L2TP設定

装置情報

サポートバージョン: 3

装置設定

ホスト名: (0~64文字)

ルーターID: 0.0.0.0

設定

対象トンネル: 1

L2TP情報

トンネル

現用サーバー: 1

接続状態: アイドル

コネクションID 自装置 / 接続先: - / -

L2TP設定

トンネル設定

サーバー#1設定

トンネル機能: ☐ 有効 ☒ 無効

接続先IPアドレス: 0.0.0.0

接続先ホスト名: (0~64文字)

接続先ルーターID: 0.0.0.0

サーバー#2設定

トンネル機能: ☐ 有効 ☒ 無効

接続先IPアドレス: 0.0.0.0

接続先ホスト名: (0~64文字)

接続先ルーターID: 0.0.0.0

Hello設定

インターバル: 10 秒 (1~300)

wait失敗判定回数: 9 (1~20)

※ インターバルとwait失敗判定回数は全トンネル共通の設定となります。

帯域制限設定

帯域制限機能: ☐ 有効 ☒ 無効

帯域制限値: 1000 Mbps (1~1000)

セッション1設定

セッション機能: ☒ 有効 ☐ 無効

接続用EndID: 0

Pseudowire Type: ☒ Ethernet ☐ VLAN

セッション2設定

セッション機能: ☐ 有効 ☒ 無効

途中省略

セッション15設定

セッション機能: ☐ 有効 ☒ 無効

セッション16設定

セッション機能: ☐ 有効 ☒ 無効

設定

トンネル一覧

No.	現用サーバー	トンネル状態	サーバー番号	トンネル機能	接続先IPアドレス	接続先ホスト名	接続先ルーターID
1	1	アイドル	1	無効	0.0.0.0		0.0.0.0
			2	無効	0.0.0.0		0.0.0.0
2	1	アイドル	1	無効	0.0.0.0		0.0.0.0
			2	無効	0.0.0.0		0.0.0.0
3	1	アイドル	1	無効	0.0.0.0		0.0.0.0
			2	無効	0.0.0.0		0.0.0.0
4	1	アイドル	1	無効	0.0.0.0		0.0.0.0
			2	無効	0.0.0.0		0.0.0.0



L2TPのサーバー設定および装置インターフェイス設定にて転送先設定のL2TPトンネル1～4に設定したセッションの詳細を設定します。L2TPにVLANを付与する場合は”VLAN制御設定”画面にてVLANの設定を行います。

## 装置情報

### ①サポートバージョン

サポートするL2TPプロトコルバージョンを示します。本装置では3固定です。

## 装置設定

### ②ホスト名

L2TP接続時に使用する本装置のホスト名を指定します。ホスト名は同一サーバー配下では重複しないようにする必要があり、サーバーと設定が一致しないと接続できません。また、L2TP接続でのみを使用するため、本装置のドメイン名などとは関係ありません。

### ③ルーターID

L2TP接続時に使用する本装置のルーターIDをIPアドレス形式で指定します。ルーターIDは同一のサーバー配下で重複しないようにする必要があり、サーバーと設定が一致しないと接続できません。また、L2TP接続でのみを使用するため、本装置のIPアドレスとは関係ありません。

### ④設定

”設定”をクリックすると②③に指定した内容が設定されます。

### ⑤対象トンネル

最大4トンネルを設定できます。設定するトンネル番号を選択します。

## L2TP情報

### ⑥トンネル

現在のトンネルの状態を表示します。

## L2TP設定

### トンネル設定

#### サーバー#1設定/サーバー#2設定

### ⑦トンネル機能

このサーバーに対するL2TPトンネル接続の有効/無効を設定します。

### ⑧接続先IPアドレス

接続先サーバーのIPアドレスを設定します。

### ⑨接続先ホスト名

L2TP接続時に使用する接続先サーバーのホスト名を指定します。サーバーに設定されたホスト名と一致しないと接続できません。また、L2TP接続でのみを使用するため、サーバーのドメイン名などとは関係ありません。

### ⑩接続先ルーターID

L2TP接続時に使用する本装置のルーターIDをIPアドレス形式で指定します。サーバーに設定されたルーターIDと一致しないと接続できません。また、L2TP接続でのみを使用するため、サーバーのIPアドレスとは関係ありません。

## Hello設定

### ⑪インターバル

コネクション制御メッセージの1つであるHelloメッセージを用いたキープアライブのインターバルを指定します。

### ⑫wait失敗判定回数

コネクション制御メッセージの1つであるHelloメッセージを用いたキープアライブの判定用の失敗回数を指定します。

## 帯域制限設定

### ⑬帯域制限機能

トンネルの帯域制限の有効/無効を設定します。

### ⑭帯域制限値

トンネルの帯域制限の値を指定します。

## セッションx設定 (xは1～16)

### ⑮セッション機能

このトンネルにおけるL2TPセッションの有効/無効を設定します。

### ⑯接続用EndID

L2TP接続時に使用する接続先サーバーのEnd IDを指定します。サーバーに設定されたEnd IDと一致しないと接続できません。

### ⑰Pseudowire Type

L2TP接続時に使用するPseudowire Typeを指定します。サーバーに設定されたPseudowire Typeと一致しないと接続できません。

### ⑩設定

”設定”をクリックすると指定したトンネル番号の設定がされます。

### ⑲トンネル一覧

設定された内容が表示されます。

# IPsec設定

The screenshot shows the Panasonic IPsec configuration page. On the left is a navigation menu with categories like '簡単設定' (Easy Setup), '無線ネットワーク設定' (Wireless Network Settings), 'ネットワーク設定' (Network Settings), 'アクセス設定' (Access Settings), 'システム設定' (System Settings), '状態' (Status), and '保守' (Maintenance). Under 'ネットワーク設定', 'IPsec設定' is highlighted. The main area is titled 'IPsec設定' and contains several sections: 'IPsecエントリー番号' (IPsec Entry Number) with a dropdown menu (1); 'IKE状態表示' (IKE Status Display) showing IKE SA status, encryption algorithm (aes-128-cbc), and hash algorithm (hmac\_sha1) (2); 'IPsec状態表示' (IPsec Status Display) showing IPsec SA status, communication mode (トンネルモード), SA protocol (esp), encryption algorithm (aes-128-cbc), and authentication algorithm (hmac\_sha1) (3); 'サーバー設定' (Server Settings) including 'IPsec設定' (有効/無効) (4), '装置インターフェイス名' (5), 'コネクション先IPアドレス/ドメイン名' (6), '事前共有秘密鍵設定' (PreSharedKey value, 7), 'ローカルID設定' (Local ID type: IP address or FQDN, 8; FQDN value, 9), and '暗号化設定' (Diffie-Hellman group, 10); and 'セキュリティポリシー設定' (Security Policy Settings) with 'デフォルトポリシー' (透過/破壊) (11). A '設定' (Settings) button is at the bottom (12).

## ①IPエントリー番号

設定を行うIpsecエントリー番号を選択します。

## ②IKE状態表示

現在のIpsec IKE (鍵交換) 状態を表示します。

## ③IPsec状態表示

現在のIpsec SA (セキュリティ接続) 状態を表示します。

## サーバー設定

### ④Ipsec設定

このサーバーに対するIPsec接続の有効/無効を設定します。

### ⑤装置インターフェイス名

このサーバーへのIPsec接続に使用する装置IFを設定します。

### ⑥コネクション先IPアドレス/ドメイン名

接続先サーバーのIPアドレスを設定します。IPアドレスの代わりにドメイン名での指定も可能です。

## 事前共有秘密鍵

### ⑦PresharedKey値

このサーバーとのIPsec鍵交換に使用するPresharedKeyを設定します。サーバーに設定されたPresharedKeyと一致しないと接続できません。

## ローカルID設定

### ⑧ID種別

このサーバーとのIPsec鍵交換に使用する本装置のID種別を設定します。サーバーに設定されたID種別と一致しないと接続できません。

### ⑨FQDN

このサーバーとのIPsec鍵交換に使用する本装置のFQDNを設定します。ID種別がFQDNの場合、サーバーに設定されたFQDNと一致しないと接続できません。

## 暗号化設定

### ⑩Diffie-Hellmanグループ

セキュリティアソシエーション(SA)を確立する際に、鍵交換に使用するDiffie-Hellman(DH)アルゴリズムのグループを設定します。選択できるグループ番号は、以下の通りです。

2/14/15/16

## セキュリティポリシー設定

### ⑪デフォルトポリシー

適切なIPsec暗号化が行われていないパケットを受信した場合の動作を設定します。透過に設定すると暗号化されていないパケットが廃棄されなくなり、閉域網以外での使用は危険です。必ず適切なフィルタと組み合わせでご使用ください。

### ⑫設定

”設定”をクリックするとIPsec番号の設定がされます。

# イーサネットポート情報

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶簡易設定

▶無線ネットワーク設定

▼ネットワーク設定

PPP設定

L2TP設定

IPsec設定

イーサネットポート情報

ルーティング設定

ルート設定

▶アクセス設定

▶システム設定

▶状態

▶保守

イーサネットポート情報

ポート情報

リンク状態

通信方式

MDI

最大通信速度

up

1000full

auto

2500BASE-T

## ①ポート情報

現在のイーサネットポートの状態を表示します。

# ルーティング設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▼ ネットワーク設定

PPP設定

L2TP設定

IPsec設定

イーサネットポート情報

ルーティング設定

ルート設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

ルーティング①設定

ルーティング 1 ▼ ☐ 有効 ☒ 無効

ルーティング装置インターフェイス設定

装置インターフェイス名1

装置インターフェイス名2

SPI設定

SPI  ☐ 有効 ☒ 無効

設定

ルーティング設定一覧

No.	動作	装置インターフェイス名1	装置インターフェイス名2	SPI	
1	無効	—	—	無効	削除
2	無効	—	—	無効	削除
3	無効	—	—	無効	削除
4	無効	—	—	無効	削除
5	無効	—	—	無効	削除
6	無効	—	—	無効	削除
7	無効	—	—	無効	削除
8	無効	—	—	無効	削除
9	無効	—	—	無効	削除
10	無効	—	—	無効	削除
11	無効	—	—	無効	削除
12	無効	—	—	無効	削除
13	無効	—	—	無効	削除
14	無効	—	—	無効	削除
15	無効	—	—	無効	削除
16	無効	—	—	無効	削除

①ルーティング設定No選択  
ルーティング設定Noを選択します。

②有効/無効選択  
ルーティング設定の有効/無効を選択します。

③ルーティング装置インターフェイス設定  
装置インターフェイス間の紐づけを行います。ここで設定した装置インターフェイス間でルーティングされます。

④SPI  
Stateful Packet Inspection機能を有効にするかを設定します。  
ステートフルインスペクションではまず、社内ネットワークなどのLAN側からWAN(インターネット)に送信したデータを、セッションログとして一時的に保存します。  
そして、WAN側から到着したパケットとセッションログを照合し、整合性が取れるかどうかを確認します。  
その上で、問題がないと判断された場合のみ、通信を許可します。

#### ⑤設定

”設定”をクリックすると下部のルーティング一覧に設定内容が表示され、本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

#### ⑥削除

”削除”をクリックすると当該ルーティング設定が削除されます。



# ルート設定

① デフォルトルート設定

② 設定

③ スタティックルート設定

④

⑤ 設定

⑥

No.	宛先IPアドレス	マスク値	ゲートウェイ	装置インターフェイス名	
DR	—	—	0.0.0.0		削除
1	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
2	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
3	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
4	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
5	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
6	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
7	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
8	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除

途中省略

30	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
31	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
32	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除

## ①デフォルトルート設定

装置インタフェースのデフォルトルートを設定します。装置インターフェイス名を選択し、ゲートウェイに転送先のIPアドレスを設定します。

## ②設定

”設定”をクリックすると①に指定した内容が設定されます。下部のルート設定一覧のDRに表示されます。

## ③スタティックルート設定No選択

最大32個のスタティックルートを設定可能。ルートを設定するNoを選択します。

## ④スタティックルート設定

スタティックルート設定を行うIPアドレス/マスク値を指定し、装置インターフェイス名を選択し、ゲートウェイに転送先IPアドレスを設定します。

## ⑤設定

”設定”をクリックすると④に指定した内容が設定されます。下部のルート設定一覧の③で指定したNoに表示されます。

## ⑥削除

”削除”をクリックすると当該行の設定が削除されます。

# 条件設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▼ アクセス設定
  - 条件設定**
  - ▶ フィルター設定
  - ▶ TOSマッピング設定
- ▶ システム設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

## 条件設定

条件番号  ①

条件内容

送信元MACアドレス	<input type="text"/>	②
送信元MACアドレスマスク値	<input type="text"/>	
宛先MACアドレス	<input type="text"/>	③ (HEX:0000~FFFF)
宛先MACアドレスマスク値	<input type="text"/>	
イーサネットタイプ	<input type="text"/>	④
送信元IPアドレス	<input type="text"/>	
送信元IPマスク値	<input type="text"/>	⑤ (0~255)
宛先IPアドレス	<input type="text"/>	
宛先IPマスク値	<input type="text"/>	⑥ (0~255)
TOS	<input type="text"/>	
プロトコル番号	<input type="text"/>	⑦ (0~65535)
送信元ポート番号 (?)	<input type="text"/>	
宛先ポート番号 (?)	<input type="text"/>	

※ 未入力の項目は、Don't careとして扱われる

設定 ⑧

条件一覧

Nd.	送信元MACアドレス 送信元MACアドレス マスク値	宛先MACアドレス 宛先MACアドレス マスク値	イーサ タイプ	送信元IPアドレス 送信元IPアドレス マスク値	宛先IPアドレス 宛先IPアドレス マスク値	TOS プロトコル 番号	送信元 ポート番号 宛先 ポート番号	
1				192.168.0.100 255.255.255.0				削除 ⑨
2	a8:13:74:c3:16:55	11:00:00:11:22:c						削除

データフレーム（無線LAN端末への送信フレームおよび無線LAN端末からの受信フレーム）に対して、MACレイヤおよびIPレイヤでのフィルタリングを行う場合のフィルタリング条件を設定します。フィルタリング条件は最大512個設定可能です。  
未入力（空白）の項目は無視されます。

## ①条件番号

条件番号（1～512）を指定します。既設定の条件番号を選択すると条件内容が表示されます。

## 条件内容

### ②送信元（宛先）MACアドレス/送信元（宛先）MACアドレスマスク値

送信元（宛先）MACアドレスには条件となるMACアドレスを指定します。MACアドレスマスク値は指定したMACアドレスのどのビットをフィルタ条件（1が有効）とするかを指定します（16進数）。

例としてMACアドレス: 88:b1:11:23:d2:e0 MACアドレスマスク値: ff:ff:ff:00:00:00 とした場合、88:b1:11:00:00:00～88:b1:11:ff:ff:ffが条件となります。

### ③イーサネットタイプ

イーサネットフレームのタイプ番号を指定します。16進数（0000～FFFF）にて指定します。  
例として0800とした場合、上位プロトコルIPv4が条件となります。

④送信元(宛先)IPアドレス/送信元(宛先)IPアドレスマスク値

送信元(宛先)IPアドレスには条件となるIPアドレスを指定します。IPアドレスマスク値は指定したIPアドレスのぼのビットをフィルタ条件(1が有効)とするかを指定します(10進数)。

例としてIPアドレス:192.168.1.100 IPアドレスマスク値:255.255.255.0 とした場合、192.168.1.0～192.168.1.255が条件となります。

⑤TOS

IPフレームのTOSフィールドの値を指定します(0～255 10進数)。

⑥プロトコル番号

IP上位層のプロトコル番号を指定します(0～255 10進数)。例として17とした場合、UDPが条件となります。

⑦送信元(宛先)ポート番号

ポート番号を指定します(0～65535 10進数)。例として80とした場合、httpが条件となります。

⑧設定

”設定”をクリックすると指定した内容が設定されます。下部の条件一覧に設定内容が表示されます。

**条件一覧**

⑨削除

”削除”をクリックすると当該行の設定が削除されます。

# 自装置宛フィルター設定

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

**Panasonic**

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▼ アクセス設定
  - 条件設定
  - ▼ フィルター設定
    - 自装置宛フィルター設定**
    - 無線送信フィルター設定
    - 無線受信フィルター設定
  - ▶ TQ Sマッピング設定
- ▶ システム設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

## 自装置宛フィルター設定

装置インターフェイス名: IF02 ①

フィルター条件登録

条件番号: ②

実施種別: ☐ 透過 ☐ 破棄 ③

設定 ④

フィルター不一致フレームの透過/破棄

フィルタリング実施種別: ☐ 透過 ☒ 破棄 ⑤

設定 ⑥

登録済み全フィルター条件削除

削除 ⑦

登録済みフィルター条件一覧

No.	条件番号 実施種別	送信元MACアドレス 送信元MACアドレス マスク値	宛先MACアドレス 宛先MACアドレス マスク値	イーサ タイプ	送信元IPアドレス 送信元IPアドレス マスク値	宛先IPアドレス 宛先IPアドレス マスク値	TOS プロトコル 番号	送信元 ポート番号 宛先 ポート番号	
1	1 透過				192.168.0.100 255.255.255.0				削除 ⑧
2	2 破棄	a8:13:74:c3:16:55	11:00:00:11:12:2c						削除

本装置の装置インターフェイス宛のフィルター設定を行う場合に設定します。

## ①装置インターフェイス名

フィルター登録を行う装置インターフェイス名を選択します。登録済みの条件がある場合、下部の登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

## フィルター条件登録

### ②条件番号

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

### ③実施種別

②の条件に一致する場合にフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

### ④設定

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

## **フィルター不一致フレームの透過廃棄**

### **⑤フィルタリング実施種別**

当該装置インターフェイスの登録済みフィルター条件一覧の全ての条件に一致しないフレームを透過するか破棄するかを設定をします。

### **⑥設定**

”設定”をクリックするとフィルタリング実施種別が登録されます。

## **登録済み全フィルター条件削除**

### **⑦削除**

”削除”をクリックすると当該装置インターフェイスの登録済みフィルタ条件が全て削除されます。

## **登録済みフィルター条件一覧**

### **⑧削除**

”削除”をクリックすると当該Noの条件を削除します。

# 無線送信フィルター設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▶ ネットワーク設定

▼ アクセス設定

条件設定

▼ フィルター設定

自装置宛フィルター設定

無線送信フィルター設定

無線受信フィルター設定

▶ TO Sマッピング設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

無線送信フィルター設定

SSID名 SSID01 ①

フィルター簡易設定

ブロードキャストフィルター設定

ブロードキャストフィルター ☐ 有効 ☒ 無効 ②

マルチキャストフィルター設定

マルチキャストフィルター ☐ 有効 ☒ 無効 ③

設定 ④

フィルター条件登録

条件番号  ⑤

実施種別 ☐ 透過 ☐ 破棄 ⑥

設定 ⑦

フィルター不一致フレームの透過/破棄

フィルタリング実施種別 ☒ 透過 ☐ 破棄 ⑧

設定 ⑨

登録済み全フィルター条件削除

削除 ⑩

登録済みフィルター条件一覧

Nb.	条件番号 実施種別	送信元MACアドレス 送信元MACアドレス マスク値	宛先MACアドレス 宛先MACアドレス マスク値	イーサ タイプ	送信元IPアドレス 送信元IPアドレス マスク値	宛先IPアドレス 宛先IPアドレス マスク値	TOS プロトコル 番号	送信元 ポート番号 宛先 ポート番号	
1	1 透過				192.168.0.100 255.255.255.0				削除 ⑪
2	2 破棄	a8:13:74:c3:16:55	11:00:00:11:12:2c						削除

本装置の無線送信のフィルター設定を行う場合に設定します。

## ①SSID名

フィルタ設定を行うSSIDを選択します。

## フィルター簡易設定

### ②ブロードキャストフィルタ

全ブロードキャストパケットに対して、フィルタリング(破棄)を行う設定です。

### ③マルチキャストフィルタ

全マルチキャストパケットに対して、フィルタリング(破棄)を行う設定です。

## ④設定

”設定”をクリックすると、フィルタ簡易設定が設定されます。

## **フィルター条件登録**

### **⑤条件番号**

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

### **⑥実施種別**

⑤の条件に一致する場合にフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

### **⑦設定**

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

## **フィルター不一致フレームの透過廃棄**

### **⑧フィルタリング実施種別**

当該装置インターフェイスの登録済みフィルター条件一覧の全ての条件に一致しないフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

### **⑨設定**

”設定”をクリックするとフィルタリング実施種別が登録されます。

## **登録済み全フィルター条件削除**

### **⑩削除**

”削除”をクリックすると当該装置インターフェイスの登録済みフィルタ条件が全て削除されます。

## **登録済みフィルター条件一覧**

### **⑪削除**

”削除”をクリックすると当該Noの条件を削除します。



# 無線受信フィルター設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▼ アクセス設定
  - 条件設定
  - ▼ フィルター設定
    - 自装置宛フィルター設定
    - 無線送信フィルター設定
    - 無線受信フィルター設定**
  - ▶ TOSマッピング設定
- ▶ システム設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

## 無線受信フィルター設定

SSID名: SSID01 ①

フィルター条件登録

条件番号:  ②

実施種別: ☐ 透過 ☐ 破棄 ③

設定 ④

フィルター不一致フレームの透過/破棄

フィルタリング実施種別: ☒ 透過 ☐ 破棄 ⑤

設定 ⑥

登録済み全フィルター条件削除

削除 ⑦

登録済みフィルター条件一覧

No.	条件番号 実施種別	送信元MACアドレス 送信元MACアドレス マスク値	宛先MACアドレス 宛先MACアドレス マスク値	イーサ タイプ	送信元IPアドレス 送信元IPアドレス マスク値	宛先IPアドレス 宛先IPアドレス マスク値	TOS プロトコル 番号	送信元 ポート番号 宛先 ポート番号	
1	1 透過				192.168.0.100 255.255.255.0				削除 ⑧
2	2 破棄	a81374:c31655	11:00:00:11:12:2c						削除

本装置の無線受信のフィルター設定を行う場合に設定します。

### ①SSID名

フィルター登録を行うSSID名を選択します。登録済みの条件がある場合、下部の登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

### フィルター条件登録

#### ②条件番号

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

#### ③実施種別

②の条件に一致する場合にフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

#### ④設定

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

### フィルター不一致フレームの透過廃棄

#### ⑤フィルタリング実施種別

当該SSIDの登録済みフィルター条件一覧の全ての条件に一致しないフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

#### ⑥設定

”設定”をクリックするとフィルタリング実施種別が登録されます。

## 登録済み全フィルター条件削除

### ⑦削除

”削除”をクリックすると当該装置インターフェイスの登録済みフィルタ条件が全て削除されます。

## 登録済みフィルター条件一覧

### ⑧削除

”削除”をクリックすると当該Noの条件を削除します。

# 無線送信TOSマッピング設定

本装置の無線送信のTOSマッピング設定を行う場合に設定します。

## ①SSID名

TOSマッピングを行うSSID名を選択します。登録済みのマッピング条件がある場合、下部の登録済みTOSマッピング一覧に表示されます。

## TOSマッピング登録

### ②条件番号

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

### ③TOS値

②の条件に一致するフレームにここで設定したTOS値を付与します。

### ④設定

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みTOSマッピング一覧に表示されます。

## TOSマッピング不一致フレームのTOS値

### ⑤TOS値

当該SSIDの登録済みTOSマッピング一覧の全ての条件に一致しないフレームのTOS値を設定します。

### ⑥設定

”設定”をクリックすると条件に一致しないフレームのTOS値が登録されます。

## 登録済み全TOSマッピング削除

### ⑦削除

”削除”をクリックすると当該SSIDに登録済みTOSマッピング一覧が全て削除されます。

## 登録済み全TOSマッピング一覧

### ⑧削除

”削除”をクリックすると当該Noの登録済みTOSマッピングが削除されます。

# 無線受信TOSマッピング設定

無線受信TOSマッピング設定

SSID名: SSID01

TOSマッピング登録

条件番号: 1

TOS値: 5 (0~255)

設定

TOSマッピング不一致フレームのTOS値

TOS値: 0 (0~255)

設定

登録済み全TOSマッピング削除

削除

登録済みTOSマッピング一覧

No.	条件番号	送信元MACアドレス	宛先MACアドレス	イーサタイプ	送信元IPアドレス	宛先IPアドレス	TOS	送信元ポート番号	宛先ポート番号	
1	1				192.168.1.10					削除
	5				255.255.255.0					

本装置の無線受信のTOSマッピング設定を行う場合に設定します。

## ①SSID名

TOSマッピングを行うSSID名を選択します。登録済みのマッピング条件がある場合、下部の登録済みTOSマッピング一覧に表示されます。

## TOSマッピング登録

### ②条件番号

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

### ③TOS値

②の条件に一致するフレームにここで設定したTOS値を付与します。

### ④設定

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みTOSマッピング一覧に表示されます。

## TOSマッピング不一致フレームのTOS値

### ⑤TOS値

当該SSIDの登録済みTOSマッピング一覧の全ての条件に一致しないフレームのTOS値を設定します。

### ⑥設定

”設定”をクリックすると条件に一致しないフレームのTOS値が登録されます。

## 登録済み全TOSマッピング削除

### ⑦削除

”削除”をクリックすると当該SSIDに登録済みTOSマッピング一覧が全て削除されます。

## 登録済み全TOSマッピング一覧

### ⑧削除

”削除”をクリックすると当該Noの登録済みTOSマッピングが削除されます。

# 静的ポートマッピング

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▼ アクセス設定
  - 条件設定
  - ▶ フィルター設定
  - ▼ TOSマッピング設定
    - 無線送信TOSマッピング
    - 無線受信TOSマッピング
    - 静的ポートマッピング**
- ▶ システム設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

## 静的ポートマッピング

装置インターフェイス名  ①

静的ポートマッピング設定  ②

対象プロトコル  (0~255) ③

適用先IPアドレス  ④

対象ポート番号  (0~65535) ⑤

適用先ポート番号  (0~65535) ⑥

⑦

静的ポートマッピング設定一覧

No.	対象プロトコル	適用先IPアドレス	対象ポート番号	適用先ポート番号	全削除
1	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
2	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
3	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
4	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
5	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
6	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
7	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
8	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
9	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
10	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
途中省略					
30	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
31	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>
32	0	0.0.0.0	0	0	<input type="button" value="削除"/>

あらかじめ固定的に使用するポート番号とIPアドレスを結びつける場合に使用します。WAN側からの特定ポートの通信を指定したIPアドレス宛に送信できます。

### ①装置インターフェイス名

静的ポートマッピング設定を行う装置インターフェイス名を選択します。登録済みのポートマッピング設定がある場合、下部の静的ポートマッピング設定一覧に表示されます。

### ②静的ポートマッピング設定

静的ポートマッピング設定を行うNoを指定します(1~32)

### ③対象プロトコル

ポートマッピングする対象プロトコル番号を設定します。

### ④適用先IPアドレス

適用するIPアドレスを指定します。

### ⑤対象ポート番号

WAN側から受信する対象ポート番号を設定します。

### ⑥適用先ポート番号

指定IPアドレスへ送信する際のポート番号を設定します。

⑦設定

”設定”をクリックすると登録され、下部の静的ポートマッピング設定一覧に表示されます。

**静的ポートマッピング設定一覧**

⑧全削除

”全削除”をクリックすると設定済みの静的ポートマッピングを全て削除します。

⑨削除

”削除”をクリックすると当該Noの静的ポートマッピング設定を削除します。



# 装置設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定  
▶ 無線ネットワーク設定  
▶ ネットワーク設定  
▶ アクセス設定  
▼ システム設定  
    **装置設定**  
    ファイル名設定  
    監視設定  
    監視制御/ログ設定  
▶ 状態  
▶ 保守

装置設定

装置時刻設定

装置時刻2001/01/01 04:38:44 (年(西暦4桁)/月/日 時:分:秒) ①

設定 ②

ログアウトタイマー設定

ログアウトタイマー600 秒 (60~3600) ③

設定 ④

装置情報

装置ロケーション (sysLocation) (0~255文字) ⑤  
担当者/連絡先 (sysContact) (0~255文字) ⑥  
装置名称 (sysName) (0~255文字) ⑦

設定 ⑧

ソフトウェア制御

ファームウェア起動面 ☒ 1面 ☐ 2面 ⑨

設定 ⑩

本装置のシステムに関する設定を行うことができます。

## 装置時刻設定

### ①装置時刻

装置時刻を手動で設定することができます。”yyyy/MM/dd hh:mm:ss”の形式で入力してください。  
※再起動時は初期化されますので再度設定が必要です

### ②設定

”設定”をクリックすると、入力した装置時刻を設定します。

## ログアウトタイマー設定

### ③ログアウトタイマー

一定時間操作しないと自動的にログアウトする時間(0~3600秒)を入力します。

### ④設定

”設定”をクリックすると、入力したログアウトタイマーを設定します。

## 装置情報

### ⑤装置ロケーション(sysLocation)

0~255文字の半角英数字で装置ロケーションを入力します。

### ⑥担当者/連絡先(sysContact)

0~255文字の半角英数字で担当者／連絡先を入力します。

⑦装置名称(sysName)

0～255文字の半角英数字で装置名称を入力します。

⑧設定

”設定”をクリックすると、入力した装置情報を設定します。

**ソフトウェア制御**

⑨ファームウェア起動面

起動するファームウェアを1面か2面かを選択します。

⑩設定

”設定”をクリックすると、選択されたファームウェア面を設定します。

# ファイル名設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▼ システム設定

装置設定

**ファイル名設定**

▶ 監視設定

監視制御/ログ設定

▶ 状態

▶ 保守

ファイル名設定

ファイル名設定

ファームウェア用	<input type="text" value="firmware"/>	← ①
設定読み出し用	<input type="text" value="config_r"/>	← ②
設定書き込み用	<input type="text" value="config_w"/>	← ③
イベントログ用	<input type="text" value="eventlog.zip"/>	← ④
端末管理ログ用	<input type="text" value="stationlog.zip"/>	← ⑤
アクセスログ用	<input type="text" value="accesslog.zip"/>	← ⑥
自動ダウンロードファームウェア情報用	<input type="text" value="autodownload"/>	← ⑦
自動ダウンロード設定データ情報用	<input type="text" value="autoconfig"/>	← ⑧
Web認証HTML用	<input type="text" value="webauthhtml.zip"/>	← ⑨
ファームウェア実行結果	<input type="text" value="firmware_result.txt"/>	← ⑩
設定書き込み実行結果	<input type="text" value="config_result.txt"/>	← ⑪
Web認証HTML実行結果	<input type="text" value="webauthhtml_result.txt"/>	← ⑫

※ファイル名の入力は1～32文字

設定 ← ⑬

本装置で使用/生成する各種ファイルのファイル名を設定します。  
①～⑫の各ファイル名を入力後、⑬”設定”をクリックすると設定されます。

# SNMP設定

**Panasonic** 装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定  
▶ 無線ネットワーク設定  
▶ ネットワーク設定  
▶ アクセス設定  
▼ システム設定  
    装置設定  
    ファイル名設定  
▼ 監視設定  
    **SNMP設定**  
        SNMP許可IPアドレス設定  
        TRAP通知設定  
        SNMPユーザー設定  
        TELNET/HTTP/FTP設定  
        NTP設定  
        Syslog設定  
        監視制御/ログ設定  
▶ 状態  
▶ 保守

## SNMP設定

**SNMPアクセス許可設定**  
アクセス許可設定 ☒ 許可 ☐ 禁止 ①

**SNMPエンジン**  
SNMPエンジンID 0x8000010203b8208e30a6d8 ②

設定 ③

SNMPコミュニティ設定一覧

No	アクセス権	コミュニティ名	ユーザー番号/ ユーザー名	バージョン	
1	読み出し			v3のみ許可	編集 ④
2	読み出し			v3のみ許可	編集
3	読み出し			v3のみ許可	編集
4	読み出し			v3のみ許可	編集
5	読み出し			v3のみ許可	編集
6	読み出し			v3のみ許可	編集
7	読み出し			v3のみ許可	編集
8	読み出し			v3のみ許可	編集
9	読み出し			v3のみ許可	編集
10	読み出し			v3のみ許可	編集
11	読み出し			v3のみ許可	編集
12	読み出し			v3のみ許可	編集
13	読み出し			v3のみ許可	編集
14	読み出し			v3のみ許可	編集
15	読み出し			v3のみ許可	編集
16	読み出し			v3のみ許可	編集

本装置はSNMPエージェントとしてSNMPマネージャーから監視、制御を行うことができます。本装置の遠隔監視制御を実現するためSNMPv1及びSNMPv2cをサポートする。本装置はMIB(ネットワークに接続された機器の状態を表す管理情報データベース)を管理し、SNMPマネージャからの要求に従ってMIB情報の読み出し／書き込みを行うことができます。

## SNMPアクセス許可設定

### ①アクセス許可設定

SNMPマネージャからのアクセスの許可/禁止を設定します。

## SNMPエンジン

### ②SNMPエンジンID

エンジン ID は、ハッシュ機能によって、SNMP v3 メッセージの認証と暗号化のための鍵を生成するために使用されます。

### ③設定

”設定”をクリックすると設定が行われます。

### ④編集

任意のNoの”編集”をクリックするとSNMP編集画面に遷移します。SNMP編集画面にてアクセス権、コミュニティ名を設定します。

# SNMP編集

## ①コミュニティ番号

編集を行うコミュニティ番号を選択します。

## SNMP設定

### ②アクセス権

SNMPマネージャが本装置に行える内容を”読み出しのみ/読み書き可能”から設定します。

### ③コミュニティ名

コミュニティ名を設定します。

### ④ユーザー番号

SNMPv3を使用する場合のユーザ番号を設定します。  
※SNMPユーザー設定で指定したユーザー番号の詳細を設定します。

### ⑤バージョン

許可するSNMPのバージョンを設定します。

### ⑥設定

”設定”をクリックすると設定されます。

# SNMP許可IPアドレス設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▼ システム設定
  - 装置設定
  - ファイル名設定
  - ▼ 監視設定
    - SNMP設定
    - SNMP許可IPアドレス設定**
    - TRAP通知設定
    - SNMPユーザー設定
    - TELNET/HTTP/FTP設定
    - NTP設定
    - Syslog設定
    - 監視制御/ログ設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

## SNMP許可IPアドレス設定

許可番号  ①

SNMP許可IPアドレス

IPアドレス  ②

サブネットマスク  ③

設定 ④

SNMP許可IPアドレス設定一覧 ⑤

No.	IPアドレス	サブネットマスク
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

本装置とSNMP通信を許可するIPアドレスを設定します。設定をしないとSNMP通信が出来ません。  
無条件に許可を行う場合、IPアドレス 0.0.0.0、サブネットマスク 0.0.0.0 を入力します。

## ①許可番号

設定は16個可能で、設定を行うNo(1～16)を選択します。

## SNMP許可IPアドレス

### ②IPアドレス

SNMP通信を許可するIPアドレスを設定します。

### ③サブネットマスク

上記IPアドレスのサブネットマスクを設定します。

### ④設定

”設定”をクリックすると設定されます。

### ⑤SNMP許可IPアドレス設定一覧

設定済の一覧が表示されます。



# TRAP通知設定

**Panasonic**

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▼ システム設定

装置設定

ファイル名設定

▼ 監視設定

SNMP設定

SNMP許可IPアドレス設定

TRAP通知設定

SNMPユーザー設定

TELNET/HTTP/FTP設定

NTP設定

Syslog設定

監視制御/ログ設定

▶ 状態

▶ 保守

## TRAP通知設定

TRAPコミュニティ設定一覧

No.	装置インターフェイス名	通知先アドレス/ドメイン名	Ver.	コミュニティ名	ユーザー番号	
1			V3			編集
2			V3			編集
3			V3			編集
4			V3			編集
5			V3			編集
6			V3			編集
7			V3			編集
8			V3			編集
9			V3			編集
10			V3			編集
11			V3			編集
12			V3			編集
13			V3			編集
14			V3			編集
15			V3			編集
16			V3			編集

SNMPマネージャーへTRAP送信をすることができます。SNMPマネージャーは別途準備が必要です。TRAP送信には監視制御/ログ設定画面にて監視制御設定をONにする必要があります。

## TRAPコミュニティ設定一覧

TRAPコミュニティ設定一覧を表示します。

### ①編集

任意のNoの”編集”をクリックするとTRAP通知編集画面へ遷移します。

# TRAP通知編集

## ①TRAP番号

編集を行うTRAP番号を選択します。

## TRAP通知設定

### ②装置インターフェイス名

TRAP通知を行う装置インターフェイス名を選択します。装置I/F設定にて設定した装置インターフェイス名が表示されます。

### ③通知先IPアドレス/ドメイン名

TRAP通知先のIPアドレスもしくはドメイン名を設定します。

### ④バージョン

SNMPバージョンを選択します。本装置ではV1、V2、V3に対応しています。

### ⑤コミュニティー名

SNMPコミュニティー名を設定します。

### ⑥ユーザー番号

TRAPv3を使用する場合のユーザ番号を設定します。  
SNMPv3をで設定したユーザ番号と同じ設定内容を使用する事になります。

## TRAP送出設定

### ⑦監視制御状態

監視制御/ログ設定画面の監視制御の設定状態が表示されます。TRAP通知には本表示がonである必要があります。

### ⑧TRAP通知

TRAP通知の有効/無効を選択します。

### ⑨設定

”設定”をクリックすると、設定されます。

# SNMPユーザー設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▼ システム設定

装置設定

ファイル名設定

▼ 監視設定

SNMP設定

SNMP許可IPアドレス設定

TRAP通知設定

SNMPユーザー設定

TELNET/HTTP/FTP設定

NTP設定

Syslog設定

監視制御/ログ設定

▶ 状態

▶ 保守

SNMPユーザー設定

SNMPユーザー設定一覧 ← ①

No.	ユーザー名	セキュリティレベル	認証方式	暗号方式	
1		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集 ← ②
2		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
3		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
4		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
5		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
6		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
7		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
8		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
9		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
10		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
11		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
12		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
13		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
14		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
15		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集
16		認証あり暗号あり	HMAC-SHA	AES128	編集

## ① SNMPユーザー設定一覧

SNMPv3で使用するSNMPユーザー設定一覧を表示します。

## ② 編集

任意のNoの”編集”をクリックするとSNMPユーザー編集画面へ遷移します。

# SNMPユーザー編集

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

簡単設定  
無線ネットワーク設定  
ネットワーク設定  
アクセス設定  
システム設定  
装置設定  
ファイル名設定  
監視設定  
SNMP設定  
SNMP許可IPアドレス設定  
TRAP通知設定  
SNMPユーザー設定  
TELNET/HTTP/FTP設定  
NTP設定  
Syslog設定  
監視制御/ログ設定  
状態  
保守

## SNMPユーザー編集

ユーザー番号 1 ①

SNMPユーザー設定

ユーザー名 (0~16文字) ②

セキュリティレベル ③  
☐ 認証なし ☐ 認証あり暗号なし ☒ 認証あり暗号あり

認証方式 ④  
☒ HMAC-SHA ☐ HMAC-MD5

認証パスワード (8~16文字) ⑤  
  
☐ 入力確認

暗号方式 ⑥  
☒ AES128 ☐ AES192 ☐ AES256 ☐ DES

暗号パスワード (8~16文字) ⑦  
  
☐ 入力確認

戻る 設定 ⑧

SNMPv3における認証、メッセージの暗号化の設定を行います

## ①ユーザー番号

編集を行うユーザー番号を選択します。  
※SNMPv3/TRAPv3で選択したユーザ番号になります。

## SNMPユーザー設定

### ②ユーザー名

ユーザー名を設定します。

### ③セキュリティレベル

セキュリティレベルを選択します。

### ④認証方式

認証方式を選択します。

### ⑤認証パスワード

認証パスワードを設定します。

### ⑥暗号方式

暗号化方式を選択します。

### ⑦暗号パスワード

暗号パスワードを設定します。

### ⑧設定

”設定”をクリックすると、設定されます。

# TELNET/HTTP/FTP設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▼ システム設定
  - 装置設定
  - ファイル名設定
  - ▼ 監視設定
    - SNMP設定
    - SNMP許可IPアドレス設定
    - TRAP通知設定
    - SNMPユーザー設定
    - TELNET/HTTP/FTP設定**
    - NTP設定
    - Syslog設定
    - 監視制御/ログ設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

## TELNET/HTTP/FTP設定

### TELNET設定

アクセス許可設定 ☐ TELNET ☒ SSH ☐ 両方 ☐ 禁止 ← ①

設定 ← ②

### HTTP設定

アクセス許可設定 ☐ HTTP ☒ HTTPS ☐ 両方 ☐ 禁止 ← ③

設定 ← ④

### FTPアクセス許可設定

アクセス許可設定 ☐ FTP ☒ FTPS ☐ 両方 ☐ 禁止 ← ⑤

設定 ← ⑥

## TELNET設定

### ①アクセス許可設定

本装置へのTELNETアクセス許可についてTELNET/SSH/両方/禁止から選択します。本設定にてCLIコンソールアクセスの制限が可能です。

### ②設定

”設定”をクリックするとTELNETアクセス許可設定が設定されます。

## HTTP設定

### ③アクセス許可設定

本装置へのHTTPアクセス許可についてHTTP/HTTPS/両方/禁止から選択します。本設定にてWEBコンソールアクセスの制限が可能です。

### ④設定

”設定”をクリックするとHTTPアクセス許可設定が設定されます。

## FTPアクセス許可設定

### ⑤アクセス許可設定

本装置へのFTPアクセス許可についてFTP/禁止から選択します。本設定にてFTPアクセスの制限が可能です。

### ⑥設定

”設定”をクリックするとFTPアクセス許可設定が設定されます。

# NTP設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶簡易設定  
▶無線ネットワーク設定  
▶ネットワーク設定  
▶アクセス設定  
▼システム設定  
  装置設定  
  ファイル名設定  
▼監視設定  
  SNMP設定  
  SNMP許可IPアドレス設定  
  TRAP通知設定  
  SNMPユーザー設定  
  TELNET/HTTP/FTP設定  
  **NTP設定**  
  Syslog設定  
  監視制御/ログ設定  
▶状態  
▶保守

## NTP設定

NTP設定

自動時刻同期    ☐同期する    ☒同期しない    ①

時刻同期間隔    60    分 (1~1440)    ②

サーバー#1 IPアドレス/ドメイン名       ③

サーバー#2 IPアドレス/ドメイン名       ④

設定    ⑤

ネットワーク上の指定したタイムサーバ(NTPサーバ)と自装置の時刻を同期させることができます。NTPサーバはお客様にて設置/設定ください。

## NTP設定

### ①自動時刻同期

自動時刻同期をするかしないかを設定します。

### ②時刻同期間隔

時刻同期間隔を分単位で設定します。本設定間隔にて同期を実施します。

### ③、④サーバー#1/2IPアドレス/ドメイン名

NTPサーバーのIPアドレスまたはドメイン名を設定します。プライマリサーバとセカンダリサーバのIPアドレス／ドメイン名の重複設定はできません。

### ⑤設定

”設定”をクリックするとNTP設定が設定されます。

# Syslog設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定  
▶ 無線ネットワーク設定  
▶ ネットワーク設定  
▶ アクセス設定  
▼ システム設定  
    装置設定  
    ファイル名設定  
    ▼ 監視設定  
        SNMP設定  
        SNMP許可IPアドレス設定  
        TRAP通知設定  
        SNMPユーザー設定  
        TELNET/HTTP/FTP設定  
        NTP設定  
        Syslog設定  
        監視制御/ログ設定  
▶ 状態  
▶ 保守

## Syslog設定

Facility設定

イベントログ  (0~23) ①  
端末管理ログ  (0~23) ②

設定 ③

Syslog設定一覧

No.	サーバーIPアドレス/ドメイン名	送信有無		編集
		イベントログ	端末管理ログ	
1		送信する	送信する	編集 ④
2		送信する	送信する	編集
3		送信する	送信する	編集
4		送信する	送信する	編集
5		送信する	送信する	編集
6		送信する	送信する	編集
7		送信する	送信する	編集
8		送信する	送信する	編集
9		送信する	送信する	編集
10		送信する	送信する	編集
11		送信する	送信する	編集
12		送信する	送信する	編集
13		送信する	送信する	編集
14		送信する	送信する	編集
15		送信する	送信する	編集
16		送信する	送信する	編集

Syslogサーバーへ本装置のイベントログおよび端末管理ログを転送することができます。Syslogサーバーは別途お客様での準備が必要です。Syslog送信には監視制御/ログ設定画面にて監視制御設定をONにする必要があります。

## Facility設定

### ① イベントログ

イベントログのファシリティコードを設定します。初期値: 16 (local use 0) のままで問題ありません。

### ② 端末管理ログ

端末管理ログのファシリティコードを設定します。初期値: 18 (local use 2) のままで問題ありません。

### ③ 設定

”設定”をクリックするとFacility設定が設定されます。

### ④ 編集

”編集”をクリックするとSyslog編集画面へ遷移します。





# Syslog編集

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▼ システム設定
  - 装置設定
  - ファイル名設定
  - ▼ 監視設定
    - SNMP設定
    - SNMP許可IPアドレス設定
    - TRAP通知設定
    - SNMPユーザー設定
    - TELNET/HTTP/FTP設定
    - NTP設定
    - Syslog設定**
    - 監視制御/ログ設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

## Syslog編集

Syslog番号 1 ▼ ①

Syslog設定

サーバーIPアドレス/ドメイン名 ②

送信有無設定

☒ イベントログ  
☒ 端末管理ログ ③

戻る 設定 ④

Syslogサーバーへ本装置のイベントログおよび端末管理ログを転送することができます。Syslogサーバーは別途お客様での準備が必要です。

### ①Syslog番号

編集するSyslog番号を選択します。

### Syslog設定

#### ②サーバーIPアドレス/ドメイン名

SyslogサーバーのIPアドレスまたはドメイン名を設定します。

### 送信有無設定

#### ③イベントログ/端末管理ログ

Syslogサーバーへ転送するログを設定します。チェックをはずすと転送されなくなります。

### ④設定

”設定”をクリックするとSyslog編集の設定がされます。

# 監視制御/ログ設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

監視制御/ログ設定

監視制御

監視制御 (?) ☒ ON ☐ OFF ← ①

設定 ← ②

ログ設定

イベントログ ☐ OFF ☒ WRAP ☐ HALT

端末管理ログ ☐ OFF ☒ WRAP ☐ HALT ← ③

アクセスログ ☒ OFF ☐ WRAP ☐ HALT

設定 ← ④

本装置の監視設定、ログ設定を行います。本装置ではイベントログ、端末管理ログ、アクセスログの取得が可能です。

## 監視制御

### ①監視制御

本装置の監視制御のON/OFFの設定を選択します。OFFにするとログ機能、TRAP送信、Syslog送信が全てOFFとなります。通常はONでご使用ください。

### ②設定

”設定”をクリックすると監視制御設定が設定されます。

## ログ設定

### ③イベントログ、端末管理ログ、アクセスログ

本装置の各ログ(イベントログ、端末管理ログ、アクセスログ)の取得について設定します。

OFF: ログを取得しません。

WRAP: ログが最大件数に達した場合、最古のレコードから上書きします。

HALT: ログが最大件数に達した場合、それ以上のログ取得は行いません。

### ④設定

”設定”をクリックするとログ設定が設定されます。

# 装置情報

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▼ 状態

① 装置情報

装置警報情報

無線情報

接続無線ブリッジ情報

接続端末情報

隣接AP検出

統計情報

▶ 保守

装置情報

ハードウェア情報

製品シリアル番号	H22H000537	①
MACアドレス	b8:20:8e:30:a6:d8	②
sysObjectID	1.3.6.1.4.1.258.46.5	③
ハードウェアバージョン	A1	④

ソフトウェア情報

システムバージョン	01.00	⑤
起動中ファームウェアバージョン	04.00 Rev.0100	⑥
現在の起動ファームウェア面	1	⑦
リセット後の起動ファームウェア面	1	⑧
ファームウェアバージョン (1面)	04.00 Rev.0100	⑨
ファームウェア作成日時 (1面)	2024/11/29 00:00:00	
ファームウェアバージョン (2面)	04.00 Rev.0100	
ファームウェア作成日時 (2面)	2024/11/29 00:00:00	

本装置の装置情報が表示されます。

## ハードウェア情報

### ①製品シリアル番号

本装置のシリアル番号を表示します。

### ②MACアドレス

本装置の装置インターフェイスのMACアドレスを表示します。

### ③sysObjectID

本装置のsysObjectIDを表示します。

### ④ハードウェアバージョン

本装置のハードウェアバージョンを表示します。

## ソフトウェア情報

### ⑤システムバージョン

システムバージョンを表示します。

### ⑥起動中のファームウェアバージョン

現在起動しているファームウェアのバージョンを表示します。

### ⑦現在の起動ファームウェア面

現在起動しているファームウェア面を表示します。本装置のファームウェアを2面構成です。

### ⑧リセット後の起動ファームウェア面

次回起動時に使用するファームウェア面を表示します。起動面は装置設定画面にて選択設定が可能です。

### ⑨ファームウェアバージョン/ファームウェア作成日時 1面/2面

1面/2面のファームウェアバージョンと作成日時を表示します。

# 装置警報情報

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶簡易設定

▶無線ネットワーク設定

▶ネットワーク設定

▶アクセス設定

▶システム設定

▼状態

装置情報

装置警報情報

無線情報

接続無線ブリッジ情報

接続端末情報

隣接AP検出

統計情報

▶保守

装置警報情報

警報情報

設定情報初期化	未発生	①
イーサネットPHYアクセス異常	未発生	②
無線デバイス異常	未発生	③
イーサネットデバイス異常	未発生	④
設定情報異常	未発生	⑤
ファームウェアサムチェック異常	未発生	⑥
VPN接続不良	未発生	⑦
レーザー検出停波 (IF2)	未発生	⑧
PoE受電状態異常	未発生	⑨

本装置の警報情報を表示します

## 警報情報

### ①設定情報初期化

不揮発性メモリに保存された設定情報が完全に破損し、全ての設定が失われたことを示します。

※本装置の設定情報は2面構成となっており、2面とも破損していることを意味します。再設定することで復旧する可能性があります。

### ②イーサネットPHYアクセス異常

イーサネットPHYのハードウェア故障を示します。本状態時はEthernetアクセスができない可能性があります。確認のためにはシリアルポートよりアクセスが必要となります。

### ③無線デバイス異常

無線デバイスのハードウェア故障を示します。

### ④イーサネットデバイス異常

イーサネットデバイスのハードウェア故障を示します。

### ⑤設定情報異常

不揮発性メモリに保存された設定情報の片面が破損しているが、もう一方の面で動作していることを示します。

※設定情報は2面構成であり、動作としては正常動作となります(但し、アラームは発生し続けます)。再設定することで復旧する可能性があります。

### ⑥ファームウェアサムチェック異常

起動後にACTLEDが赤点灯します。2面の内どちらかの面のファームウェアが破損しています。ファームウェア書き込みを行ってください。書き込みをしても復旧しない場合はハードウェア故障となります。

※本装置のファームウェアは2面構成なので、1面が破損してももう1面で動作は可能です(但し、アラームは発生し続けます)。

### ⑦VPN接続不良

VPN設定時にVPNが切断されると本警報が発生し、ACTLEDが赤点灯します。本装置およびVPNルータ等外部装置の設定を確認してください。

⑧レーダー検出停波 (IF2)

5GHz帯にて気象レーダー等のレーダーを検出し、切替先チャンネルがなく5GHz帯が停波したこと示しています。切替先チャンネルを確保できるよう設定の見直しをしてください。例として最大周波数帯域幅を小さくする (40MHz⇒20MHz) ことでチャンネル数を確保できます。

⑨PoE受電状態異常

PoE給電時の受電状態を示します。PoE給電機器の給電能力 (PoE+以上必要) が足りない可能性があります。

※ハードウェア故障は修理 (代替品交換) が必要です。修理に関しましては購入先へお問い合わせください。

# 無線情報

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

装置インターフェイス設定

SSID設定

SSID詳細設定

無線詳細設定

Authenticationサーバー設定

Accountingサーバー設定

DNS設定

端末接続許可設定

回線設定

Web認証設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▼ 状態

装置情報

装置警報情報

無線情報

接続無線ブリッジ情報

接続端末情報

隣接AP検出

統計情報

▶ 保守

無線情報

無線インターフェイス情報

2.4GHz帯

使用チャンネル番号1

最大周波数帯域幅20 MHz

チャンネル利用率43 %

ノイズレベル-95 dBm

出力レベル18 dBm

サーマルスロットリング無効

5GHz帯

使用チャンネル番号36

最大周波数帯域幅80 MHz

チャンネル利用率100 %

ノイズレベル-95 dBm

出力レベル16 dBm

サーマルスロットリング無効

無線情報一覧

No.	2.4GHz帯動作	2.4GHz帯 BSSID	5GHz帯動作	5GHz帯 BSSID	SSID
1	有効	b8:20:8e:30:a6:d9	無効	—	test2.4G
2	無効	—	有効	b8:20:8e:30:a6:da	test5G
3	無効	—	無効	—	—
4	無効	—	無効	—	—
5	無効	—	無効	—	—
6	無効	—	無効	—	—
7	無効	—	無効	—	—
8	無効	—	無効	—	—
9	無効	—	無効	—	—
10	無効	—	無効	—	—
11	無効	—	無効	—	—
12	無効	—	無効	—	—
13	無効	—	無効	—	—
14	無効	—	無効	—	—
15	無効	—	無効	—	—
16	無効	—	無効	—	—

現在の無線状態(2.4GHz、5GHz)を表示します。

## 無線インターフェイス情報

### 2.4GHz帯/5GHz帯

#### ①使用チャンネル番号

現在の使用チャンネルを表示します。

#### ②最大周波数帯域幅

現在の最大周波数帯域幅を表示します。



③チャンネル利用率

現在の自装置および周辺APが、時間割合で現在のチャンネルをどの程度使用しているをを表示します。

④ノイズレベル

現在の無線の受信ノイズレベルを表示します。

⑤出力レベル

現在の送信出力レベルを表示します。

⑥サーマルスロットリング

温度上昇による動作制限の状態を表示します。

⑦無線情報一覧

SSID番号ごとの無線出力状態(有効/無効、SSID名等)を表示します。

# 接続無線ブリッジ情報

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▼ 状態

装置情報

装置警告情報

無線情報

接続無線ブリッジ情報

接続端末情報

隣接AP検出

統計情報

▶ 保守

接続無線ブリッジ情報

接続サーバー一覧 ← ①

接続サーバー数: 0 台

MACアドレス ▼	接続時刻 ▼	無線モード ▼	無線IF ▼	RSSI値 (dBm) ▼	送信レート (Mbps) ▼	受信レート (Mbps) ▼	SSID名 ▼
-----------	--------	---------	--------	---------------	----------------	----------------	---------

接続クライアント一覧 ← ②

接続クライアント数: 0 台

MACアドレス ▼	接続時刻 ▼	無線モード ▼	無線IF ▼	RSSI値 (dBm) ▼	送信レート (Mbps) ▼	受信レート (Mbps) ▼	SSID名 ▼
-----------	--------	---------	--------	---------------	----------------	----------------	---------

現在の無線ブリッジ接続状態を表示します

## ①接続サーバー一覧

現在の無線ブリッジ接続しているサーバーAPの情報を表示します。

## ②接続クライアント一覧

現在の無線ブリッジ接続しているクライアントAPの情報を表示します。

# 接続端末情報

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶簡易設定  
▶無線ネットワーク設定  
▶ネットワーク設定  
▶アクセス設定  
▶システム設定  
▼状態  
  装置情報  
  装置警告情報  
  無線情報  
  接続無線ブリッジ情報  
  **接続端末情報**  
  隣接AP検出  
  統計情報  
▶保守

## 接続端末情報

検索条件設定

端末MACアドレス (?)  ①

表示条件設定

並び替え  ②

表示 ③

端末一覧

MACアドレス	IPアドレス	接続時刻	無線モード	無線IF	RSSI	送信レート (Mbps)	受信レート (Mbps)	SSID名	④	⑤
fa:24:89:74:8c:9a	192.168.0.25	2001/01/01 05:30:31	11n	2.4	-43	72	72	SSID01	詳細	切断

本装置に接続している無線端末の情報を表示します。

## 検索条件設定

### ①端末MACアドレス

端末のMACアドレスを指定して端末情報を表示することができます。条件を指定しない場合は\*を入力してください

## 表示条件設定

### ②並び替え

並び替えの表示条件 (SSID名/接続時刻/無線モード) を指定して端末情報を表示することができます。

### ③表示

”表示”をクリックすると検索条件設定、表示条件設定に従って本装置に接続している端末の一覧が表示されます。

### ④詳細

”詳細”をクリックすると接続端末詳細情報画面が表示されます。

### ⑤切断

”切断”をクリックすると端末を切断します。

# 接続端末情報

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▼ 状態

装置情報

装置警報情報

無線情報

接続無線ブリッジ情報

接続端末情報

隣接AP検出

統計情報

▶ 保守

接続端末詳細情報

端末情報 ①

接続情報 ②

無線情報 ③

アソシエーション状態 ④

認証状態 ⑤

戻る

端末MACアドレス	fa:24:89:74:8c:9a
端末IPアドレス	192.168.0.25

SSID名	SSID01
SSID	test2G
BSSID	b8:20:8e:30:a6:d9
接続時刻	2001/01/01 05:30:31

RSSI値	-43 dBm
送信データレート	72 Mbps
受信データレート	58 Mbps

無線モード	11n
AssociationID	1
ショートスロットタイム対応状況	ショート
ショートプリアンプル対応状況	ショート
802.11認証アルゴリズムの種別	-
リッスン間隔	10
データレート	1M/2M/5.5M/6M/9M/11M/12M/18M/24M/36M/48M/54M
WMM状態	有効
U-APSD情報 (Vo/Vi/Be/Bk)	レガシー-PS/レガシー-PS/レガシー-PS/レガシー-PS
U-APSD情報 (最大送信数)	ALL
LDPC (11n)	有効
LDPC (11ac)	-
LDPC (11ax)	-
最大動作周波数チャネル幅	20 MHz
SM Power Save 状態	無効
ショートガードインターバル (20MHz)	400 ns
ショートガードインターバル (40MHz)	800 ns
ショートガードインターバル (80MHz)	-
ショートガードインターバル (11ax)	-
最大A-MPDU長	65535 バイト
最小MPDU間隔	2 us
MCS(11n)	[MCS0] 1111111100000000 (MCS15)
最大伝送データレート (11n)	72 Mbps
MCS 1ストリーム (11ac)	-
MCS 2ストリーム (11ac)	-
最大伝送データレート (11ac)	-
MCS 1ストリーム (11ax)	-
MCS 2ストリーム (11ax)	-
最大伝送データレート (11ax)	-
STBC送信対応状況 (11n)	無効
STBC受信対応状況 (11n)	1ストリーム
STBC送信対応状況 (11ac)	-
STBC受信対応状況 (11ac)	-
STBC送信対応状況 (11ax)	-
STBC受信対応状況 (11ax)	-

EAP認証種別	-
ユーザー名	-

接続端末の詳細情報を表示します。

①端末情報

接続している端末の情報を表示します。

②接続情報

端末との接続情報を表示します。

③無線情報

端末との無線通信のAP側の無線情報を表示します。

④アソシエーション状態

端末-AP間のアソシエーション情報を表示します。

⑤認証状態

802.1X認証時の認証情報を表示します。

# 隣接AP検出

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定

▶ 無線ネットワーク設定

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▼ 状態

装置情報

装置警報情報

無線情報

接続無線ブリッジ情報

接続端末情報

隣接AP検出

統計情報

▶ 保守

隣接AP検出

全チャネルスキャン 実行

モニタリング結果一覧

BSSID	SSID	RSSI値 (dBm)	チャンネル 番号	周波数 幅	無線モード
18:c2:bf:13:f5:80	Buffalo-G-F58E	-84	1	20/20	11n
06:00:23:cb:c0:45		-82	1	20/20	11n
f0:9f:fc:a9:a2:06	SH-C9LAP	-46	1	20/20	11n
68:e1:dc:5a:f3:a3	Buffalo-G-F3A0-WPA3	-87	1	20/20	11n
b4:77:48:c9:d8:aa	Uro_5129301	-51	1	20/20	11n
00:2b:f5:43:1e:30		-76	1	20/20	11n

本装置周辺の他のアクセスポイントのモニタリング結果を表示します。本画面を開くとスキャンを行い、結果を表示します。

## ①全チャネルスキャン

”実行”をクリックするとスキャンを実施します。

## ②BSSID

周辺AP出力のBSSIDを表示します。

## ③SSID

周辺AP出力のSSIDを表示します。SSIDステルスの場合は空白となります。

## ④RSSI値

周辺AP出力の本装置での受信レベルを表示します。

## ⑤チャンネル番号

周辺AP出力の使用チャンネルを表示します。

## ⑥周波数幅

周辺AP出力の使用帯域幅を表示します。

## ⑦無線モード

周辺AP出力の無線モードを表示します。

# 統計情報

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▶ システム設定
- ▼ 状態
  - 装置情報
  - 装置警報情報
  - 無線情報
  - 接続無線ブリッジ情報
  - 接続端末情報
  - 接続AP検出
  - 統計情報**
- ▶ 保守

## 統計情報

### イーサネット

送信		
送信	21837	バケット
エラー	0	バケット
破棄	0	バケット
オーバーラン	0	バケット
キャリア	0	バケット
衝突	0	バケット

受信		
受信	21861	バケット
エラー	0	バケット
破棄	20	バケット
オーバーラン	0	バケット
レンジスオーバー	0	バケット

### 2.4GHz帯

送信		
ユニキャスト	86	バケット
マルチブロードキャスト	34	バケット
ビーコン	6185	バケット
マネジメント	1328	バケット
エラー	0	バケット
破棄	0	バケット

受信		
ユニキャスト	107	バケット
マルチブロードキャスト	14	バケット
マネジメント	0	バケット
PHYエラー	15236	バケット
CRCエラー	0	バケット
復号化エラー	0	バケット
その他エラー	0	バケット

### 5GHz帯

送信		
ユニキャスト	0	バケット
マルチブロードキャスト	0	バケット
ビーコン	6192	バケット
マネジメント	90	バケット
エラー	0	バケット
破棄	0	バケット

受信		
ユニキャスト	0	バケット
マルチブロードキャスト	0	バケット
マネジメント	0	バケット
PHYエラー	0	バケット
CRCエラー	0	バケット
復号化エラー	0	バケット
その他エラー	0	バケット

### ①イーサネット

イーサネットの送信/受信パケットの統計情報を表示します。

### ②2.4GHz帯

無線(2.4GHz帯)の送信/受信パケットの統計情報を表示します。

### ③5GHz帯

無線(5GHz帯)の送信/受信パケットの統計情報を表示します。



# ユーザー設定

本装置へのログインに必要なアカウント情報(ユーザー名、パスワード)の設定を行います。  
初期値はユーザー名、パスワード共にrootとなっています。セキュリティ上、ユーザー名およびパスワードは初期値より変更するようお願いします。※パスワードは初回ログイン時に変更が必要となります。

## ユーザー名変更

### ①ユーザー種別

ユーザー種別を示します。管理ユーザーのみとなります。

### ②ユーザー名

ユーザー名を入力します(1～16文字)。

### ③設定

”設定”をクリックするとユーザー名が設定されます

## パスワード変更

### ④ユーザー種別

ユーザー種別を示します。管理ユーザーのみとなります。

### ⑤現在のパスワード

現在のパスワードを入力します。

### ⑥新しいパスワード

変更する新しいパスワードを入力します。

### ⑦新しいパスワード(確認用)

変更する新しいパスワードを入力します。

### ⑧設定

”設定”をクリックするとパスワードが設定されます。

※アカウント情報は厳重管理願います。アカウント情報がわからなくなった場合、ログインができなくなります。INITスイッチにより初期状態に戻すことは可能です。

# 初期化



## 設定初期化

### ①工場出荷初期化

”工場出荷初期化”をクリックすると”設定を初期化後に再起動します。よろしいですか？”と表示されます。”OK”をクリックすると設定が初期化され、装置は再起動します。

### ②設定初期化

”設定初期化”をクリックすると”設定を初期化します。よろしいですか？”と表示されます。”OK”をクリックすると設定が初期化されます。

## ログ初期化

### 各ログ初期化

#### ③イベントログ、端末管理ログ、アクセスログ

初期化を行うログを選択(チェック)します。チェックしたログ全てが初期化されます。

### ④初期化

”初期化”をクリックすると”選択したログを初期化します。よろしいですか？”と表示され、”OK”をクリックすると②でチェックしたログが全て消去されます。

# 自動ダウンロード

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▶ システム設定
- ▶ 状態
- ▼ 保守
  - ユーザー設定
  - 初期化
  - 自動ダウンロード**
  - ログ表示
  - マネージメント設定

## 自動ダウンロード

自動ダウンロード状態

動作状態	アイドル
バージョン	-
更新情報	-
残り時間	0 分
ファームウェア最終結果	-
設定データ最終結果	-

自動ダウンロード設定

自動ダウンロード動作

ファームウェア動作設定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> ダウンロードのみ <input type="radio"/> ダウンロードとリセット
設定データ動作設定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
動作契機設定	<input checked="" type="radio"/> 起動時 <input type="radio"/> 定時刻 <input type="radio"/> 起動時および定時刻
時刻設定	3 時 (0~23)

FTP設定

セキュリティ種別	<input type="radio"/> FTP <input checked="" type="radio"/> SFTP
IPアドレス/ドメイン名	<input type="text"/> (0~64文字)
パス設定	<input type="text"/> (0~64文字)
ユーザー名	<input type="text"/> (0~32文字)
パスワード	<input type="text"/> (0~32文字)
<input type="checkbox"/> 入力確認	

設定

本装置のファームウェアおよび設定データを自動的にダウンロードする機能の設定を行います。あらかじめ指定のサーバーに自動ダウンロード情報(ファームウェア/設定データの2種類)とファームウェアおよび設定データの準備が必要です。

※ファームウェア、設定データ、自動ダウンロードファームウェア情報ファイル名および設定データ情報ファイル名は”ファイル名設定”画面に設定しているファイル名として指定サーバーへ保存しておきます。

## ①自動ダウンロード状態

自動ダウンロードの状態を表示します。

## 自動ダウンロード設定

### 自動ダウンロード動作

#### ②ファームウェア動作設定

ファームウェア自動ダウンロードの動作を設定します。

無効: 自動ダウンロードしない。

ダウンロードのみ: 自動ダウンロードを行う。次回起動時にダウンロードしたファームウェアで起動します。

ダウンロードとリセット: 自動ダウンロードを行い、完了後、再起動を行います。

※自動ダウンロードは本装置の起動面のファームウェアが、自動ダウンロード情報のファームウェアバージョンと一致しない場合に行われます。

#### ③設定データ動作設定

設定データ自動ダウンロードの動作を設定します。

無効: 自動ダウンロードしない。

有効: 自動ダウンロードを行う。

※自動ダウンロードは自動ダウンロード情報内の更新情報に差分があり、装置起動面のファームウェアバージョンで有効な設定の場合に行われます。

#### ④動作契機設定

自動ダウンロードの動作契機の設定をします。

起動時: 装置起動時に自動ダウンロードを実行する。

定時刻: 指定時刻に自動ダウンロードを実行する。

#### ⑤時刻設定

動作契機設定が”定時刻”時の時刻(0~23時)を設定します。指定された時刻から1時間以内に行われます。

#### FTP設定

##### ⑥セキュリティ種別

自動ダウンロードのFTPセキュリティ種別をFTP/SFTPから選択します

##### ⑦IPアドレス/ドメイン名

自動ダウンロードの各ファイルを保存しているサーバーのIPアドレスもしくはドメイン名を設定します。

##### ⑧パス設定

自動ダウンロードファイルが保存されているサーバーのフォルダを指定します。

##### ⑨ユーザー名

サーバログイン時のユーザー名を設定します。

##### ⑩パスワード

サーバログイン時のパスワードを設定します。

##### ⑪設定

”設定”をクリックすると設定されます。

### 補足(自動ダウンロード情報ファイルフォーマット)

#### ●ファームウェア情報ファイルフォーマット

```
autodownload config version XXXXXXXX,
autodownload config updateside YYYYYYYY,
autodownload config filename ZZZZZZZZ,
```

XXXXXXXX: バージョン番号 00000000-FFFFFFFF (上位2byte: バージョン 下位2byte: リビジョン)

YYYYYYYY: 更新面 運用面(operation)/バックアップ面(backup)/両面(both)

ZZZZZZZZ: 自動ダウンロード用ファームウェアファイル名(32文字)

#### ●設定データ情報ファイルフォーマット

```
autodownload config updateinfo AAAAAAAA,
autodownload config versionBBBBBBBB,
autodownload config filename CCCCCCCC,
```

AAAAAAA: 更新情報(最大32文字) (任意: 前回と差分がある場合のみ設定データのダウンロードを行う)

BBBBBBBB: バージョン番号 00000000-FFFFFFFF (上位2byte: バージョン 下位2byte: リビジョン)

CCCCCCCC: 自動ダウンロード用設定データファイル名(32文字)

# イベントログ表示

**Panasonic**

装置再起動 | 適用 | **保存** | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶簡易設定  
▶無線ネットワーク設定  
▶ネットワーク設定  
▶アクセス設定  
▶システム設定  
▶状態  
▼保守  
    ユーザー設定  
    初期化  
    自動ダウンロード  
▼ログ表示  
    **イベントログ表示**  
    端末管理ログ表示  
    アクセスログ表示  
    マネージメント設定

## イベントログ

ログ情報表示

ログ表示ブロック番号(?)  (1~10, 未入力の場合は最新ログ表示) ← ①

ログ表示 ← ②

0000008565	2001/01/01	00:01:01	Information	System Wakeup
0000008568	2001/01/01	00:01:01	Warning	RTC Failure (Initialized)
0000008570	2001/01/01	00:01:01	Warning	FROM Config Cleared (Initial Switch On)
0000011787	2001/01/01	00:01:33	Notice	ETH IF1 Link Up
0000008475	2001/01/01	00:01:01	Information	System Wakeup
0000008478	2001/01/01	00:01:01	Warning	RTC Failure (Initialized)
0000011637	2001/01/01	00:01:33	Notice	ETH IF1 Link Up
0000002786	2001/01/01	00:00:04	Information	System Wakeup
0000002788	2001/01/01	00:00:04	Warning	RTC Failure (Initialized)
0000005903	2001/01/01	00:00:35	Notice	ETH IF1 Link Up
0000002793	2001/01/01	00:00:04	Information	System Wakeup
0000002796	2001/01/01	00:00:04	Warning	RTC Failure (Initialized)
0000006003	2001/01/01	00:00:38	Notice	ETH IF1 Link Up
0001851206	2001/01/01	05:08:05	Information	WLAN IF1 Operating 1ch 20MHz
0001851304	2001/01/01	05:08:08	Information	WLAN IF2 Operating 36ch 80MHz

①ログ表示ブロック番号  
表示したいログのブロック番号を指定します。

②ログ表示  
”ログ表示”をクリックすると指定のログを表示します。

# 端末管理ログ表示

The screenshot shows the Panasonic terminal management web interface. On the left is a navigation menu with categories like '簡単設定' (Easy Setup), '無線ネットワーク設定' (Wireless Network Settings), 'ネットワーク設定' (Network Settings), 'アクセス設定' (Access Settings), 'システム設定' (System Settings), and '状態' (Status). Under '状態', there is a '▼ 保守' (Maintenance) section containing 'ユーザー設定' (User Settings), '初期化' (Initialization), '自動ダウンロード' (Automatic Download), '▼ ログ表示' (Log Display), 'イベントログ表示' (Event Log Display), '端末管理ログ表示' (Terminal Management Log Display - highlighted with a red box), 'アクセスログ表示' (Access Log Display), and 'マネージメント設定' (Management Settings).

The main content area is titled '端末管理ログ' (Terminal Management Log). It includes a 'ログ情報表示' (Log Information Display) section with a text input field for 'ログ表示ブロック番号 (?)' (Log Display Block Number (?)) and a note '(1~10, 未入力の場合は最新ログ表示)' (1~10, if not input, the latest log is displayed). A red arrow points to this field with a circled '1'. Below this is a 'ログ表示' (Log Display) button, also indicated by a red arrow and a circled '2'. The log content is displayed in a table with columns for ID, Date, Time, Status, and Event details.

0001916931	2001/01/01	05:19:03	Stang Int	Event ST Connect OK STA:62-63-00-88-19-5D API
0001918746	2001/01/01	05:19:21	Stang Int	Event ST Disconnect Reason STA:62-63-00-88-19-5D API
0001919115	2001/01/01	05:19:24	Stang Int	Event ST Connect OK STA:62-63-00-88-19-5D API
0001920928	2001/01/01	05:19:43	Stang Int	Event ST Disconnect Reason STA:62-63-00-88-19-5D API
0001939356	2001/01/01	05:22:47	Stang Int	Event ST Connect OK STA:FA-24-89-74-8C-9A API
0001972542	2001/01/01	05:28:19	Stang Int	Event ST Disconnect Reason STA:FA-24-89-74-8C-9A API
0001985702	2001/01/01	05:30:30	Stang Int	Event ST Connect OK STA:FA-24-89-74-8C-9A API
0001985716	2001/01/01	05:30:30	Stang Int	Event ST Connect RECONNECTING STA:FA-24-89-74-8C-9A API
0002061261	2001/01/01	05:49:06	Stang Int	Event ST Disconnect Reason STA:FA-24-89-74-8C-9A API

①ログ表示ブロック番号  
表示したいログのブロック番号を指定します。

②ログ表示  
”ログ表示”をクリックすると指定のログを表示します。

# アクセスログ表示

Panasonic

装置再起動 | 適用 | **保存** | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶簡易設定

▶無線ネットワーク設定

▶ネットワーク設定

▶アクセス設定

▶システム設定

▶状態

▼保守

ユーザー設定

初期化

自動ダウンロード

▼ログ表示

イベントログ表示

端末管理ログ表示

**アクセスログ表示**

マネージメント設定

アクセスログ

0002064002	2001/01/01 05:43:49	FTP	192.168.0.101:51675	Exit	Root User
0002065242	2001/01/01 05:44:01	FTP	192.168.0.101:52041	Login	Root User
0002068872	2001/01/01 05:44:38	FTP	192.168.0.101:52041	Exit	Root User

本装置へのアクセスに関するログを表示します。



# マネージメント設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定  
▶ 無線ネットワーク設定  
▶ ネットワーク設定  
▶ アクセス設定  
▶ システム設定  
▶ 状態  
▼ 保守  
    ユーザー設定  
    初期化  
    自動ダウンロード  
▼ ログ表示  
    イベントログ表示  
    端末管理ログ表示  
    アクセスログ表示  
    **マネージメント設定**

## マネージメント設定

マネージメント設定

監視マネージャーIPアドレス

コンフィグ必要有無設定 ☒ 必要 ☐ 不要

設定

APを監視マネージャで管理監視をしている場合、APの故障交換を行った際に、監視マネージャの登録更新・コンフィグファイルのダウンロードをさせることができます。  
※監視マネージャに、コンフィグ強制転送処理設定が必要です。

### ①監視マネージャIPアドレス

弊社統合監視マネージャのIPアドレスを指定します。本装置は現在のIPアドレスを監視マネージャに定期的に通知し、監視マネージャは通知を元に装置のIPアドレスを更新します。本装置を遠隔監視するためのIPアドレスが固定されていない場合に設定してください。

### ②コンフィグ必要有無設定

本装置がIPアドレスを通知する際に、同時に通知するコンフィグ設定の要否を設定します。”必要”の場合、監視マネージャは本装置に対してコンフィグ設定を自動的にを行います。

※コンフィグ設定は1度のみとするため、監視マネージャからダウンロードするコンフィグで本設定を”不要”にする必要があります。

コンフィグの最後に”management config status disabled”を1行追加してください

### ③設定

”設定”をクリックすると設定されます。